

27X
21
49

關原

武事紀

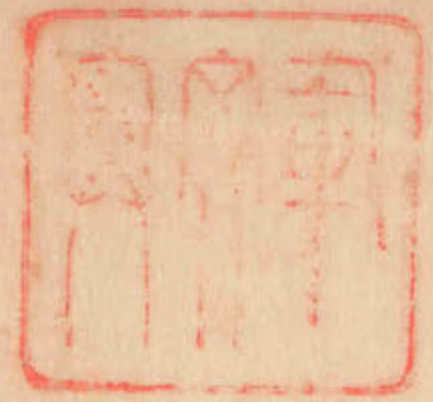
二十四
戰畧 閑原下 續集

武事紀
卷之二十四
閑原下

武事紀
閑原下

武家事紀

卷第二十四



武家事紀卷第二十四目錄

續集

戰畧

關原 下 自九月



Faint vertical text in the left margin, likely bleed-through from the reverse side of the page.

武家事紀卷第二十四目錄

武家事紀卷第二十四 續集

戰畧 關原下

九月朔日 神君江戸御發駕江戸御留守居

御本丸武田信義主代 万十 松平康元守 因幡

青山忠成常陸介 内藤清成修理亮

酒井忠利備後守 諏訪頼忠守 才藝

松平清宗備後守 菅沼定盈織部正

本多正信佐渡守 初從秀忠公至真田金銀無之

石川家成日向守 領隱居免伊豆

天野康景三郎兵衛 三千石 屬武田信義 後閑原御一戰無心无未存之密二上

根志于賴水從秀 忠公兼鈞命守上

清本于玄春頭家 清守清洲

府及興國守 定盈于定仍守顯

家成于康通守清 河



方ニ至ル御一戰勝利ノ後也 神君大ニ御飲
色アリテ乃大坂西九ノ御留守居夕リ

右之外

板倉勝重 四郎右衛門町奉行
後任伊賀守

加藤喜左衛門 足輕大將

伊奈忠政 熊藏後任代官
備前守

同時大御番頭

松平某 忠左衛門後
任大隅守

松平某 善四郎後
任筑後守

松平某 右京亮後
任筑後守

水野某 藤次後任
對馬守

渡邊某 久三郎後
任山城守

同時御旗奉行

村串某 與三左
衛門

酒井某 作右衛門或云酒井
兼司御長柄

同時足輕大將

服部石見 二百人
伊賀衆

伊奈圖昏 百人

成瀬小吉 百人
根未

渡部半藏 百人

渡部矢之助 五十人

水野太郎 作
上同

加藤喜左衛門 同上

神谷彌五助 同上

柳原小兵衛 五十人

高木九助 同上

嶋田次兵衛 同上

森川全右衛門 同上

此外未勘

御使番

牧助右衛門

山本新五左衛門

横田甚右衛門

初鹿傳右衛門

大久保助左衛門

犬塚平右衛門

服部權太夫

阿部八右衛門

唐以守
真田一徳木子
甲州ニテカク
市右衛門トテ
黄八幡差物

城和泉守 初名 織部

山上江左衛門

保坂金右衛門

中澤主税助

成瀬小吉

瀧川豊前守

御城ヨリ芝口ニテ出御ノ所ニ尾州ノ飛脚クサカリヲ

ノコノ頸十一到来 赤坂ニテイテ逆徒ヨリ 則神明ノ前

ニテ御覽ノレヨリ三録山高童院増上寺ニ入ラセ玉フ

テ法問ヲ御聽聞本則ヲ御所望ノ所住寺存翁和尚天上

小笠原次右衛門 鈴木友之助

嶋田次兵衛 西尾藤兵衛

真田隱岐守 間宮左衛門

小栗忠左衛門 安藤彦兵衛

米津清右衛門 小栗又市忠政

米倉丹後守

天下唯我獨尊ノ句ヲ論ス是則天下ニ一人ノ主タラセ
玉ツシトテ秘教スト也源君甚御快然和尚御吉例ニ一
カセ御旗ヲトツテ單刀直入ノ文ヲカク是ハ永録 癸六
年十月三朔ニテ一向宗ノ逆徒蜂起ノ時大樹寺ノ登臺
上人白布ノ御旗ニ厭離穢土欣求淨土ノ文ヲカク此御
旗ニテ忽御勝利アリシエハ也今日ハ神奈川ニ御泊
今日濃州へ加藤源太郎ヲ使節トメツカワサレ味方ノ
諸勢源君ヲ待タク動可然逆徒戰ヲイトムト云尼不可
輕戰ノ旨各へ御書ヲ被下
中納言秀忠卿今日小縣郡上田城へ入リヨセ玉フ上田

ニハ真田安房守昌幸伊勢崎城ニハ左衛門佐幸村夕テ
コセル秀忠卿小諸ヨリ真田昌幸カ方ハ御使ノ時昌幸
返答ニ平成一成ニ與シ候ニアラス会津ハ發向ニ陳用意仕
候テ引コミ居候即上田ノ城ノフヂイ夕ニ可奉渡ト云
テ一西目ニ夕セ奉ルコレニ因テ味方大ニ怒城外ヲ放
火シ城ヲトリツメセリアイアリ大番衆ノ内ヲスクリ
五十人前田ニ出シ敵ヲ引出サントス時ニ真田ク口四
方ノ指物ニ金ノ御幣ノ一トイヲモ夕セ城キツヲ乗ト
ラル大久保相模守忠隣カ旗奉行杉浦宗左衛門是ヲ見
テ旗ヲ、シ出ス牧野石馬允康成カ旗奉行七旗ヲス、

ムルニ付テ前田ノ大番衆ヲイ、木戸口ハ押ヨスルト
イハ厄間遠クシハ真田ハ心静ニ門ニ入テアトヲ立サ
セ足輕ヲ木戸口ハ出シテ寄手ヲツ味方門キツニテ
ツメヨセテ門ヲノラントス内ヨリ木石ヲ、トシ茶臼
トニテテ寄手々員多シ寄手危ノ城兵キヲイカ、ルユ
ホ出スヘニ大久保忠隣本多忠政下知メ寄手ク引ニイ夕ニ
引トル右城攻ニ大番衆木田善太夫ヲニテ城兵ヲ射ハ
ラフニ手ノ矢ニテ小野二郎右衛門箕戸口ニテ鎧ヲツ
キ合我ヤリヲ敵ニトラレ敵ノヤリヲ取ル辻太郎助後
忠兵衛木戸口ハ急ニツク内ヨリ鎧ニテワタカミヲツク

ノノ鑑ヲ奪トリケレハ小野力鑑也過已レカ鑑ト二筋
持居ル一方ハ中山助六後號助朝倉藤十郎後任筑鎮
目市左衛門齋藤久右衛門城ノ口ニ付テセリ合アリ此
外才田半平水野大膳等戦功アリトイハ凡無御下知城
ヘツキ御軍法ヲノムク由御意ニ付テイツレモ城キツ
ヘ寄タル丁ヲカクス木田過小野中山朝倉鎮目齋藤七
人御軍法ヲヤブリタル旨嚴命ニ由テアカツニハ引込
才田半平モアカツニニ籠居結城三川守秀康ヨリ秀忠
卿ハ使者未リノノヤノ墨
ニテ右ノ次等ノ見物仕ルノ後秀康ヨリアカツニハ
各小袖二領ツ、玉ハル此特才田半平ニハ不賜ナリ
過カモチシ鑑ヲ二節右衛門已カ鑑ナレハトテト云

是ニテソノ場ニテ出入出来各アツカイニテ後ソタス
ト云ニ此度家人ノモノ軍法ヲヤブリニ答ニヨツテ木
久保忠隣カ旗奉行ハ忠隣下知ラニタス自殺ス牧野カ
旗奉行ハ逐電ス此セリ合ニ木多忠政カ兵淺井小兵衛
未田角右衛門能働アリ而ノ城兵堅守カユハニ寄手急
ニ攻ル丁不叶遠卷ニメ數日ヲ經此間芦田衆依田肥前
守足輕セリ合等アリ本多忠勝後ニ真田カ出タル丁ヲ
キイテ昌幸一代ノ不覺タルヘシ
ト云ハ
リト也
右ノ時分森右近大夫忠廣兵ヲ虚空山へ早クアケテ真
田表ヲトリカタム此度忠廣家人名籠屋三左衛門森庄
藏小

トシノ井土宇石衛門先陳ノ争アリ此遺恨ヲ以テ三左衛
門井土ヲツ也三左衛門七蒙疵死也或云真田表ノ也
事ト合八月朔日ノ
非也

義濃國郡上ハ稻葉右京亮貞通居城也貞通逆徒ニ與シ
加勢トメ犬山ニ在城ス郡上ハ元遠藤左馬助常利代々
ノ領所ニテ處ノ案内有タレハトテ今度ノ軍功ニ郡上
ヲ襲取テ本領ヲ安堵セシテ金森法印ニツイテ源君
ハ申上ケレハ八月廿日御吞ヲ賜リコトニ軍功ニヨツ
テ郡上ヲ被下ノ旨命セラレケレハ大ニ喜金森ト牒シ
合セ郡上ノ城ヲ可攻タメ義濃路外田口ヨリ遠藤常利

龜彈國ヨリ長滝口ハ金森法印長近可攻入ト約ス西方
凡ニ難所ナレハ人數ヲクリアルル、一數日ニ及スノ處
稻葉右京亮貞通ステニ関東ハ内通ニ堀尾吉氏福嶋正
則コレヲトリアツカイ事スミケレハ郡上ノ城真無用
ノ由井伊本多兩人ヨリ告来ルシカレ凡是ニテ攻ヨセ
夫一ツ不射シテ引取シテ七非本意トテ兩人ノラシラ
ズシテ九月朔日郡上ハ幡山ヘテシヨスル金森家人吉
田孫四郎元ヨリ郡上モノニテ案内者ナレハ尾崎山ヨ
リ郡上ノ古城山ヘトリ上ラシタメ長瀧口ヨリ攻入遠
藤ハ和良口ヨリ城ノ大手ヘ攻入城ニハ貞通力ヲ修理

死後號箱葉土佐入道大將ニテツツカノ小勢揃籠コト
ニ身通スヲニ関東方ナレハ別ノ子細ナシト心易存居
不思寄リナリクレハ柴崎甚右衛門那波五左衛門中村
太郎左衛門ツツカ三人城下谷合ノ切取ヲカタトリ防
戦ノ寄手切取ニサ、ハラレ不進得城兵中村ス、三出
テ鍵ヲツキ出ヌニアニサレ真サカサニ下ヘラツル
コレニラシメシタレテ金森カ兵コトク坂下ニ落トモ
具足ニテ手負死人アリ中村モ打死ヌ柴崎那波城へ引
入城兵原十兵衛佐合加右衛門等力戦ヌ金森カ兵ツ、
イテ古城へヨセタレハ城兵要害ヲカニハ夫玉ヲ飛メ

サ、ユ金森カ兵牛丸二郎左衛門今井手助南部宗四郎
阿波須作十郎戦死ヌ金森ツイニ尾崎山へ引トル飯沼
源左衛門アトニノコリ城ノ旗ヲ一流クハイ取テカハ
ル遠藤モ赤町口櫻町ニ陳ヲハリ急ニ攻ル丁不能城中
ヘアツカイヲ入ル城中無勢ナレハ一旦和談ヲ入ソノ
中ニ小宅傳三郎ヲヒソカニ犬山ヘツカワシ右ノ次第
ヲ告右京亮大ニ怒リ一騎カクニハセ付郡上ヨリ二里
手前カリヤス村ニ至テツ、ク兵ヲ待ソ口ハ九月三日
ノ未明ニ討立郡上ヘノリ入シタメ遠藤カ陳へ打テカ
カル遠藤不意ヲウタレ瑞川小十郎同五郎四郎驚見忠

左衛門餌馬作介自左衛門等打死スソノイキホイニ右
京亮城中ニ入り入ル其後アツカイニナリ金森遠藤七
兵ノ入ル也今日朔日ノ様子使節ヲ以テ源君并ニ秀
忠卿ハ註進ス

二日源君藤澤ニ御著行程五里福嶋正則池田趣政力使者コ

コニ至リ岐阜落城ノ次第ヲ言上ス或云六日

三日小田原御著行程八里ニ町竹中丹後守重門濃州岩手城主加藤左

衛門尉濃州黒野城主逆徒ノ催促ニヨツテ犬山ニ加勢ストイ

ハ尾井伊本多ノ夕ノ三テ源君ハ内通ノ趣キ小田原ハ

申来ル今日西人ハ御書ヲ賜テ其志ヲ感セラル

今日德永法印力元ヨリ吉川内通ノ丁テ奉告書付到来
乃德永ニ御内書ヲ賜ル

四日三嶋ニ御泊七里十町五日清見寺ニ御泊

六日嶋田ニ著御濃州味方ノ諸將各使者ヲ奉リ岐阜落

城ノ由ヲ告今日御旅館ニ到着ノ言上ス

七月中泉ニ御著

今日逆徒江州大津城ヲ攻此城ニハ京極宰相高次京極長門

寺高在城也初高次関東へ與メ旗ヲ上タリトイハ尾木

谷刑部少輔吉隆カハカライヲ以テ和睦ニ及ヌ高次モ

大義一旦ニ事ナリカタクレハ時節ヲ伺テ先逆徒ニ従

八月五日北國ノ加勢トノ越前ニ至リ大聖寺ニ陳テ
張テ大谷吉隆カ下知テ待ノ処岐阜落城ニ付テ北國勢
悉ク大垣へ可出旨申来リ大谷吉隆敦賀城ニ蜂屋市兵
衛テノコシ七里半ノ山中ニ日置及田ヲ置木目峠ニ岩
根傳五郎ヲサシテイテ九月朔日ニ敦賀ヲ立テ濃州ニ
出テ北國勢脇坂父子中務少輔安治
淡路守安元小川父子土佐守
左馬助才
田武藏守子息内記朽木河内守利綱亦座久兵衛直保各
相従テ京極高次ハワサト一日引サカリテ敦賀ヲ立四
日ニ大津ニ著テ則義兵ヲ舉大津松本関寺近邊ノ民屋
一宇モ不残焼拂テ寄手ヲ待コレニ因テ逆徒吉川藏人

廣家久留米侍従秀包立花左近將監宗茂苑紫上野介義
冬伊東民部少輔祐隆宮部兵部少輔南条中務少輔木下
倫中守ニ多賀出雲守杉谷越後守ヲ案内者トシテ秀頼
卿ヨリ小出大隅守吉政石川掃部頭頼明松浦伊豫守高
田小左衛門輝元名代堅田兵部少輔廣澄毛利七郎共衛
元康輝元
伯父増田長盛カ名代増田作右衛門各大軍ヲ率メ
今日七日大津ノ城ヲ圍ニ長柄山ヨリ大筒ヲシカケ湖
水ニハ近江一國ノ船ヲ夕カヘテ海陸ヨリ取カコム
九月源君岡崎ニ著御
九月鬼大隅守嘉隆秀頼卿ノ舟奉行村上彦右衛門義清管

野右衛門八并ニ毛利輝元カ舟奉行村上八郎左衛門能義
孫兵衛等軍船ニテ來名表尾張路へ働尾州トコ十八八
アカリ今日九日焼働ライ夕ニ浦々ヲ乱妨ス十二月新
名へ船ヲツケテ十三日九鬼并秀頼卿ノ舟奉行濃州南
宮へ出長束正家ニ對面ス正家カ下知ニ由テ村上菅野
八四日市ノ城ヲクトリニ行九鬼ノ鳥羽ハカヘル村
十四日ニ四日市ニ至ル十五日ノ晚長束只一騎関箇原
ヨリコ、ニ來リ村上ヲクノンテ津ハ船ヲニワサシム
村上船ニテ津ニニツトイハル長束不來ユハ
ニ村上ハ鳥羽ヘコヘ九鬼ニ參会ノ引トル
黒田如水今日居城中津豊ヲ立テ大友退治ニ出勢ス大
友左兵衛督義統本國没收ノ後毛利輝元ニアツケラレ

周防山口ニ浪々ノ處今度逆徒等大友ヲ大坂へ招テ輝
元并増田長盛カハカライトノ馬百疋具足百領長柄鎧
百本鉄鉈三百挺ヲ三百張銀子三千枚ヲ與へ本國豊後
ニハセ下リ小倉ノ城主森壹岐守ニ牒シ合セ九州ノ関
東方ヲ可退治ノヨシヲ下知スコレニ因テ大友譜代ノ
家人牢人凡ヲアツメ豊後ヘコヘ立石ノ要害ヲ取立テ
楯籠リ柴田小太郎ヲ四方ヘニワシ軍士ヲアツム此立
石ハ大友宗麟一亂ノ時コレニ夕ヲコモリ運テヒラキ
シ吉例ノ地也トゾ而メ長岡越中守忠興カ領分へ出勢
メ木築ノ城ヲ責ントス故ニ木築ヨリ加勢ヲコフ黒田

如水方へハ上方ノ逆乱七月十七日キコヘケレ厄委細
ノ註進不詳ユヘニ四方ノ敵味方聞合今日出勢ニ及ヒ
ケル也

十日源名熟田ニ著御

逆徒三成家人林半助ニイ、付テ曾根ヲヤキ立曾根ノ
要害ヲ可乗捕手立ヲ十サシム曾根ニハ水野亦左衛門
勝成後任日向守西尾豊後守光教在陳シテコレヲ守ル林半
助呂久村ノ浪人馬淵兵左衛門元氏家志摩守家人此比浪人ヲカクテ
イ間者トシテ曾根城ノ搦手瀬古村へ忍火ヲカケ曾根
ヲ可乗取リテ約ス馬淵才覚ノ高田秋山ト云浪人ヲカ

夕ライ忍ニコシテハ今日十日刈田ノ人足ニニシハ瀬
古村ヘツカワス刈田ノ奉行コレヲ見トカメケレノニ
人ハ落合村ノ川ヲコシテノカル馬淵ハ瀬古村ノ名主
宇野石近右衛門カ所ヘカケ入り此處ニ西尾豊後守光
教カ姉女綾野ト云ヘル女ノアリシヲ人算ニトル水野
西尾カ兵コノ家ヲトリニクトイハ厄右ノ通ユヘ馬淵
ヲトヲフル丁不叶ノ内ニ馬淵去カイ夕ニ西尾カ内
馬淵推右衛門ト曰友ナレハ推右衛門處ニアツカル其
後ツイニ馬淵ヲ殺シ首ヲ曾根ノ道ハ夕ニカケシムル
也

十二月源君清洲ニ著御自清洲北方ヲワタリ玉ヲ岐
北ハ往ノミナナリ

大津ノ城中ニ大閣ノ電妾松丸高次有之コレニ因テ高

野木食與山上人來テアツカイヲ入ル、トイハ厄高次

不用之

十三日源君故阜ニ著御北國青木紀伊守丹羽長重各降

参ノ義ヲ乞ニヨツテ今日土方勘兵衛雄久カ元ハ御書

ヲ賜テ中納言利長丹羽長重ト和睦アツテ越前表ヲ千

シ夕カヘラルヘキトヲ命セラル

黒田如木九月ニ中津ヲ立テ十月ニ畠垣見和泉末寺居城十二

日ニ安岐城下ニ至ル熊谷内藏城々ノ躰一覽初メ如水

大友カ元ハ大加大學元大友ヲ使トメ味方ニ属セラル

ヘキトヲ云ツカワス此使コ、ニ來ツテ大友木築城ヘ

取カクル由ヲ告長岡忠興家臣松井佐渡守有吉四郎右

衛門カ元ヨリ七加勢ノトヲ告來ニツイテ安岐ノ城責

ヲサシキ立石ハ趣自中津トスシカラハ先木築ヘ

後詰勢ヲツカワスヘシトテ十二月先立テコレヲツカ

ワシ十三日如水モ木築ヘス、ム所安岐城ヨリ付出ル

時ノ押トメ栗山備後守ヲ跡ニノコシ藪夕、ヲラカタ

取テ居ラシム如案安岐ヨリ兵ヲ出ス處栗山コレト渡

シ合追拂頸數四十餘ツ取コレラ中津ニ遣シ高瀬川
ノ西ニカクシム十三日如水立石ノ三里手前カシラナ
リト云處ニ陳取如水ヨリノ加勢十二日ノ晚ニ木築ニ
付十三日ノ朝木築勢松井有吉如水カ援兵ト石垣原ニ
出テ陳ヲハル木友義統帥師ヲ出張ス先陳木部玄珠ニ
陳義弘加兵衛行親後陳宗像掃部也如水カ加勢先陳森
與三兵衛將枝平太夫二ノ手久野次左衛門曾我部五左
衛門池田九郎兵衛黒田安太夫也井上九郎右衛門ハ竈
相寺山ニ備テ如水方ノ大將タリ其次ニ松井有吉相備
ノ初合戦ニ木友カ兵敗北ス黒田方ニクルヲ追ヌカフ

處ニ木友カ兵小川ヲヘタテ、カヘシ合三備ヲ一ツニ
ノモリカヘス如水方久野曾我部カ兵悉敗北シ兩人小
膝ヲ折テ軍勢ヲト、ムレ凡不叶兩人戦死ス曾我部ハ
宗像掃部
ト引組井上竈相寺山ヨリ備ラシ口シ横ラウツ井上木
友カ將義弘加兵衛行親トツタシ合セ小ミノヲヘタテ
テ戦ノ互ニシレルモノナレハ名乗合テ勝負ヲナス處
ニ井上カカニヤリ義弘カ内胃ニカクテケレハ義弘重
手ニヘニ若黨ニ引カケラレテ退ク義弘カ鎧モ井上ニ
アタリケレ凡ツキノヒレテ不當身此場ニテ義弘ツイ
ニ亦死ユヘ手ノ者八十三騎雜兵百九十七人戦死ス此

戦ニ井上カ備モアヤウカリシヲ野村市右衛門亦根ノ

差物干時横ヨリ打テカ、リ大友カ勢悉ク敗北ス大友

カ勇士吉良傳右衛門ハ井上カ内大村六太夫是ヲツ

トル長岡カ兵魚住右衛門兵衛中村次郎兵衛分捕ノ功

名アリ吉弘キヲ引トリカ子居タルヲ小栗次右衛

門首ヲアケテ来ル也コノユハニ吉弘首小栗夕

ナタリトイ、シヲ井上ヤリツケタル十三日ノ晩黒田

ノヲ云テツイニ井上カ功タリ如木實相寺山へ著也

今日上杉景勝カ老臣直江山城守兼一作景隆畑屋城ヲ責ム初

景勝奪津ヲ領シ長沼城ニ嶋津下下齋自川城ニ五百川

縫殿助平林内藏助白石城ニ耳敷備後守柳川城ニ須田

大炊助横田大學及大崎義隆等ニ木松城ニ下糸坂河守

南山ニ小園但馬守福嶋城ニ木庄越前守重長米澤城ニ

直江山城守兼繼ヲ入置ケリ会津城分内不置トテナラシ柳刺

ノ原ニ城ヲ取立ントテ議ストイハ凡末首尾内ニ源君

御征伐ノ事ニナリケレハ米澤福嶋ニ番勢ヲサシ置テ

木庄直江ノ會津ニツメテ軍ノ評定ヲナヌ木庄ハ自川

口へ勤テ可然トイ、ケルヲ直江思慮メ最上へハ夕ラ

クハシト云木庄去敵ノ向方へハ不出ノ出羽國へノ勤

ハイカ、ト云ケレハ内通ノ者有之ユハ也トテ今日十

三月春日左衛門上泉主水ニ人衆ヲサシソハ大関弥七

杉原常^{陸久}ヲ軍奉行トシ直江山城守大將トシテ^上出羽
守義光領地村田郡へ下長井口鮎貝ヨリ畑屋城へ押寄
自山形迄畑屋城守江口五兵衛ツツカノ小勢ニテ大敵
ヲフセク^一不可叶ノ間城ヲスラ、山形ニツホムヘシ
ト義光數度コレニ告トイヘトモ江口不肯目比小身ニ
テ塚目ヲ守ルノ処大敵ノ圍ヲクテ退逃ル、ノ道ア
ルヘカラス此城ニテイテ快死ヲ可遂ト去キルニ付テ
山形ヨリ後責トシテ飯田播磨守伊良古輝正高館遠江
守松根備前守小園日向守延澤遠江守名代氏江左近名
代富並忠左衛門寒河江肥前守同外記等都合二千余人

ノ援兵ナリ直江ノ十二月ニ畑屋ノ関ヲ越城ノ向ノ山
ニ陣ヲ取テ城ヲ圍ム山形ヨリ後責ノ軍勢寄手ノ大勢
ヲシカ、イ各評議シテルハ此城ノ落去不可有目シカ
ラハ直ニ山形ヘラシヨセ攻撃之無疑此人衆コ、ニテ
戦死無益シカレハ身ヲ全メ山形一戦ノ用ニ可立トテ
築澤村ト云所ニヒカヘテ畑屋城ヘカラ不付飯田播磨
去ケルハ此迄加勢トシテ出勢ニ江口ヲ捨殺テ歸ラシ
ト豈勇士ノ本意ナラシヤ各ハトモカクモ飯田ニライ
テハ城中ニ入テ江口トヒニ死ヲナスヘシトテ忽畑屋
ノ城ニカク入ル其夜江口カ謀ヲ以テ寄手ハ夜折イ夕

シ春日左衛門カ陳ヲヤク寄手大勢ヲタルアクレ八十
三月ノ朝直江カ先勢畑谷ヲトリニキ攻撃之城兵甚カ
戦スシカレ尼城中微勢ナレバツイニ落城江口五兵衛
同猶子小吉甥久作ハ本城ニテ自殺後責勢飯田播下ハ
二郭ニテ戦死ス藜澤ニヒカハタル山形ヨリノ加勢ハ
落城ヲミテ悉敷軍シ山形ニ引カハス直江ハ下原ト云
所ニ陣ヲトリテ畑屋城ニノ茅直江但馬守ヲ城代トシ
テソノ身ハ十四日長谷堂ヲ攻ヘキ用意ニ付長谷堂ノ
向菅澤ノ山ニ陣ヲ取テ諸手ヲアツメ長谷堂ヲ可攻下
ヲ議ス景勝領分カケタ川ニテ両所ニ一接ヲコリ相馬
ヲ引ハ此時上泉主米コレヲ退治ニ出テカ戦ス

未刻亦坂者御
黒田ノワキ彼
岸繩千御通り
ト云々

此時上泉カ下友町
大膳戦功アリ

十四日源君故阜ヨリ木田ノ舟渡蓮田郡ノ道筋ヲトテ
ラセ玉ノ安八郡八条村瑞雲寺ノ禪僧大ナル梯ヲ一折
献上ス公大ニ悦ハセ玉ヲテ大垣手ニ入ト仰ラレ御進
習ノ輩ニハイトラセ玉ノ別永代ノ寺領十石ヲ賜フ俗
ニ梯寺ト號ス而メ午ノ刻赤坂ノ岡山ニ岡山ハ赤坂ノ
南三町四面ノ
小山也去月廿三月ヨリ此山ノ御陳ヲスヘラル此山ハ
陳城トメ御本陳ト定置所
清見原天皇木友ノ皇子ニラノツレ吉野山ヨリ伊勢路
ヲヘテ此山ニアカリ玉ノツイニ木友カ戦ニカ千此山
ニアカリ此下ノ川ニテ大疵ヲアライ其苦ヲ治シ玉ノ

ユヘニ山ヲ勝山ト云川ヲ昔愈川入昔醫ト勅號アリシ

ト也源君岡山ニ入ラセ玉イ先山上ノセイ口ヲヘアカ

ラセ玉ノテ逆徒ノ体ヲ伺ハセ玉ノ諸大名群參ストイ

ハ厄慰勞ノ御言モ十カリケレハ井伊本多心得テ諸大

名ハ会釋ス而ノ明日ノ軍評定アリ

今日源君御著座ニ付テ諸大名路次ニテ為御迎出ツ其

様子ヲツカ、ソレタメニ逆徒三成力兵嶋左近同新吉

安宅三郎右衛門足輕兵士少々召ツレ出ツ嶋左近ハ足

輕ハカリ召ツレ兵士ヲハ新吉ト安宅トニアツク置合

圖次第可来ト約ス左近机瀬川ヲコヘテ赤坂取出ノ前

ニ出ル其所中村一角有馬玄蕃頭力陳場也西將ノ家人

厄七源君御著座ヲ可奉見トテ出クルカ嶋左近足輕ヲ

カクルヲ見テ中村力家人厄出合左近力兵士甚スク十

ケレハコレヲアナトリ嶋左近力足輕厄ト取クサル中

村力兵中村名代トノ中村彦左衛門耳利甲州耳利藪内

匝野一色頼母赤井久左衛門高屋助八郎矢野和泉成合

平左衛門酒井兵右衛門吉田武左衛門長野六郎二郎竹

田五郎兵衛原田出遇テ嶋左近力足輕ヲ追崩ス左近川

ヲコシテ引カケ既ニアヤツカリケルヲ新吉安宅ノリ

入テラツカヘシ机瀬川ヲコシテ中村力兵ヲ、イツツ

耳利ノハシノ野一色頼母原田竹田十ト打死ス三成力
兵嶋左近同新吉安宅三郎右衛門前野伊豆丹羽五平次
形木佐左衛門以下戦功アリ源君赤坂ヨリ御覧アツテ
程々皮ノ羽織ヲキタルモノ一番ニ出テ下知イタシフ
リ見事ナリト仰アリシハ此安宅也 丹波五千次モ程々
皮ノ羽織ヲキルト
イハヒ是ハ
跡ニアリ

中村カ兵士追立ラレタルヲ見テ有馬玄蕃頭カ兵成合
セ三成力兵士ノ引トルヲツクル安宅又足輕ノ一トイ
テウチカクル玄蕃内稻次右近 後號
壹岐 太田半平岡本清三
郎 後號彌一
右衛門 藤瀬左大夫浅野彦兵衛土方六左衛門瀧半

左衛門池田又ノヘイ杉浦ノト口カケ出テ追崩ス稻次

一番ニ先ヲカケ横山監物ヲクミテ千ニイタス 横山監
物又號

予削監物三成カ家臣蒲半備中家人也此クミテ千ノ特
稻次下ニナリシヲ稻次カ馬トリ上ヨリ監物ヲツツ

入三成力兵花本外記ト鍵ヲ合ス藤瀬左大夫岡本清三

郎鑓ヲ合セ戦功アリ此時逆徒方宇喜多秀家カ兵士カ

ケ付テ戦功アリ而ノ物ソカレイタセリ三成力兵林半

助 白シナイ
指物 秀家カ兵稻葉助丞 金ノキリサ
キノ指物 西人殿ス中

村有馬カ兵多クシタレケルユヘ味方ノ請手川ハ夕ニ

ノソシテ戦ヲイトム逆徒方兵士カサミケレハ源君赤

坂ノ町ヤノ上ヨリ御一覽アツテイソキ井伊本多ヲ被

遣フレヲ引トラシムヘキトノ了也西人机瀬ニイタリ
引トラシム西人机ニスハタニ
戸羽織ヲ著ス

右兩度ノカクアイ逆徒利ヲ得首尾ヲ大垣ニテ實檢ス
首ノ色アシキ由各評定今度ノ戰無心元トイヘリト也

此セリ合ニ秀家力兵明石掃部自シ十イ淺香左馬相葉
指物

猪石衛門銀ノ釘ノ前立金ノエフリヨシトノ評也
幅

凡ノ味方八月廿三日岐阜落城ノ後ハコトク赤坂ニ
打入テ赤坂ノ四方ニ陳ヲバル大垣ト佐和山ノ通路ヲ
ト、ノシタノ井伊本多兩氏ノハカライトシテ長松ニ
一柳監物直盛ヲ陳トラシム
長松ハ元竹中戶居城也近
年ハ武光夫部少輔有之武

光ノ岐阜落城ヲキイラセ
三日ノ晩勢州赤名ニ逃長松ノ要害ツツカ堀一重ニ

テ屋敷カニヘモアサニナルヲ以テ逆徒ニ成カ方ヨリ
度々忍ラ入テ長松ヲ乗捕ントス一柳兩度ニテ忍ヲト

ラハ井伊本多力元ニ遣ス兩氏七度々見分ノ夕メ長松
ニイタル此地干要ノ所ナレハ諸手ヨリ人夫ヲ出シ要

害ヲ堅固ニイタシ一柳ニ守ラシムヘキトテ藤堂佐渡
守高虎十ツハリヲ力ニハ普請ヲ企ツル内ニ去ル朔日

御出馬ノ旨加藤源太即為使節来ルユヘコレヲヤム長
松左ノ方東ハ大垣ニ近シ前南ハ毛利家ノ大軍アリ右

ノ方西ハ松尾山関箇原ニ上方勢充滿又長松ヨリ岡山

へ新道ヲアツ凡長松味方ノ陳ヲハナル、丁七餘町也
丁柳堅夕守之曾根ニハ初松下石見寺在陳ス此處ハ赤
坂海邊ヲサ、ユル所也コトニ樂田ニ嶋津陳城ヲカ
へセイロクヲアケテ赤坂海邊ヲ取キラントイ夕シ嶋
津方ヨリ度々足輕ヲカケ松下トセリ合引取サニ領
家ト云村へ火ヲカケ樂田へ夕入然レハ曾根大事ノ
地ナリトテ井伊本多見分ノ上木野六左衛門勝成在陳
ス西尾豊後守古瀬村ニ陳取テ曾根ヲカケタム
赤坂ノ道ヲタテノサム也曾根ハ元稱
赤居城此北ハ堀モ埋リ平地同前
樂田ト曾根ト西所
逆徒岐阜落城ノ後諸方ノ寄手ヲ大垣近處へニ于キテ

レハ筑前中納言秀秋ハ松尾山ニ陳ヲハル北國勢大谷
刑部少輔吉隆朽木脇坂小川寺西下野守才田武藏守平
塚因幡守木下山城守赤座久兵衛ハ関箇原ノ西北山中
ニ陳ヲハル伊勢口ノ逆徒毛利長曾我部ニ長束正家相
加テ南宮山岡カ鼻ニ陳ヲハル石田小西嶋津宇喜多ハ
大垣ニアツ一リ居テ軍評定ヲイ夕シ諸大將ヲ大垣へ
ニ子キ日夜群議ヲコラスノ比西羨濃北山廣瀬ノ谷
ニ高橋修理亮ト云モノアリ古大閤ヨリコノカ夕存知
ラレシモノナレハ玉成カハカライトノ秀頼卿ノ馬廻
ノ侍廣瀬兵庫助知行ト云モノヲ高橋カ元ハツカワシ

廣瀬糟河ノ谷ノ野伏狩人千人ヲ催シ高橋修理廣瀬兵
庫助兩人大将トシテ赤坂へ出テ關東勢ヲ可襲トテ莫
金百枚ヲ與ヘ才覚ニツカフス廣瀬左馬助彼地ニ行テ
此事ヲ高橋ニ談ス高橋不肯シテ事ヤミ又如此四方ヲ
カラクリテ數日ヲ送ル其内ニ毛利輝元カ臣吉川藏人
廣家カ許ヘ德永法印カ方ヨリ南宮ノ祢亘右衛門大夫
ヲ使ニシテ和鞋ノ丁ヲツクロイケレハ吉川ツイニ關
東へ内通ノ誓書ヲ出ス此旨八月廿六月德永方ヨリ一
ツ書ヲ以テ關東へ言上スルノ處小田原ニライテ入高
覽則德永方へ御書ヲ被下十四日赤坂御著座ノ日栗屋

十郎兵衛ヲ人質トシテ献上ス筑前中綱言ハ元ヨリ關
東へ志ヲ通スルカユヘニ大垣ニ不出合逆徒コレヲ疑
テ平塚因幡守爲廣ヲ使トメ秀秋ニ一紙ノ誓狀ヲナサ
シム尚夕夕カワシキ事多クレハ十四日ニ大田半右衛
門ヲ使トシテ秀賴卿十五歳ニテハ關白職ヲ秀秋ニ任
シ天下ノ大小事ヲ一カスヘシ當分ノ雜掌トメ播磨國
ヲ一イラセ家臣稍葉佐渡守平岡石見守ニ江州ニライ
テ十萬石ツ、與ヘ兩人へ當座ノ引出物トシテ秀賴卿
ヨリ黄金三百枚ツ、可賜旨ヲシルニ三成吉隆正家行
長惠瓊秀家連判ノ誓狀ヲ稍葉平岡カ元ニ遣シ秀秋ノ

心ヲトルトイハル秀秋深ク關東へ志ヲ通ス

今日源君亦坂へ御著陳ニキツレリケレハ逆徒方大

ニ驚秀家ノ所ニアツテ軍ノ評定ス大軍ツツカノ

小城ニ揃籠ルヲ謀ナキニ似タリ關箇原へ出テ佐和山

ヲ後ニアテ一戦ヲ可決一陳ハ三成嶋津小西安國寺秀

家也二陳ハ大谷ヲ大將トメ北國勢タルヘシ松尾山ノ

秀秋南宮山ノ毛利力軍勢自山上迄山下十八段也横アイヨリ可打

出ト定ム而メ大垣ノ城本丸ニハ福原石馬助直高二ノ

郭號備中丸熊谷内藏名直陳垣見和泉守家純木村宗左衛門

木村常陸守所ニテ七十石取レル者也三ノ郭ニ高橋秋月相良ヲ入置テ堅

ク守ラシム

味方ヨリ入置處ノ忍ノモトハセカヘリ逆徒明日關

箇原へ出張ノ告アリケレハ明日ノ御先手福嶋左衛門

大夫正則其次井伊本多左右ニ備フ北ノ山ノ手ハ加

藤黒田藤堂細川金森也南宮ノ押勢トシテ池田淺野山

内有馬中村樽井ト野上トノ間ノ山手ニ陳ラハルヘシ

長松ニハ一柳監物岡山ノ御留守居堀尾信濃守吉氏池

尻ニ松平丹波守康長津輕右京亮為信西尾豊後守松下

右兵衛曾祿ニ水野六左衛門勝成也合戦ハ松尾山ヨリ

筑前中納言秀秋アイヅアルヘシ是ヲ可待合トノ軍令

也御旗本ニハ田中兵部少輔吉政地形ノ案内有タレハ
可罷有ノ旨被仰出セノミノ兵澤井左衛門祖父江法齋
森勘解由奥平藤兵衛也此特逆徒方ノモトノ三就次郎兵衛澤田小三郎ト道ニテ行合言
シヲ引退今夜夜ニ入テ大雨甚シ

今日黒田如水橋大友義統昨十三日如水實相寺山ニ著
陳シ今日十四日昨日ノ戦ニ打トル所ノ首實檢シ乃大
友カ楯籠ル立石ヲセメレトス立石ハ東ハ海西南ハツ
ルミカ嶽ト云高山北ハ石垣原トテ廣野也岸高ノ屏風
ヲ立タルカコトシ大友義統昨日ノ戦ニ夕ノミ切タル
勇士コトクク夕タレクレハコノコ口四方ヨリカリア

ツメタル軍勢ナレハ一夜ノ間ニ皆落失テ義統立石ノ
籠城カナイカタシ因是如水カ先手毛利大兵衛尉カ陳
ヘアツカイヲ入降参テ乞義統剃髮染衣ノ姿ニナツテ
主従十人多兵衛カ陳ニ来ル如水一命ヲタステ義統ヲ
イケトリ別中津へ遣シ関東へ言上ス柳川ヨリ幸花カ
兵豊後ノ月田ニテ出張シ大友ヲスクフトイハ凡石垣
原ニテノ戦ニ大友敗潰シケルヲキイテ早々柳川へ引
カヘス加藤清政自師ヲヒキイテ豊後國クヌ郡ノ方ノ
山陰ヨリヲシ出シ黒田ニ助力セントス中川修理大夫
大勢ニテ豊後ノ竹田ノ城ヨリ立石ニ出張メ黒田如水

ニ加勢ストイハ各石垣原一戦ノ後十ルカニ引
力ハス竹中源助子米女正ハ如木ニ従テ此戦ニ出合也
今日大津ノ城陷大津京町口ハ三田村安石衛門尉今村
掃部助九茂万五郎赤尾久助屋子宮内少輔由井太郎左
衛門也三井寺口ハ友岡新兵衛尉浅見藤右衛門尉前川
筋ハ赤尾伊豆守山田大炊助後改多賀
越中守同三左衛門尉守
之此城良ノ方一方ニ湖水ノ要害アリ残三方ハ平地ニ
ノ關寺三井寺ノ方ハ山高メ城中目ノ下ニツカ、ツル
シカレハ久シク籠城カナイ難カルヘシト云ハ高次
堅ク守テ寄手攻アグミ松浦伊豫守ヲ先トメ歷々討死

ス去ル十一月ニテハ遠攻ニイクシクルカ城兵黒田伊
豫守野心ヲサシハサ三寄手ハ内通セシメケレハ寄手
コレニ利ヲ得十三日ノ朝ヨリトリニキ急ニセメ二三
郭ヲセメ破テ相戦ノ寄手多賀出雲守カ手ニ城兵ノ首
五ツツトル此旨則大坂ヘ註進ニ付髷元長盛多賀ニ
感書ヲ與ユ右ノセリ合ニ由井太郎左衛門尉門後ヲイ
夕シ山田大炊赤尾伊豆浅見藤右衛門十ト皆夕テ出サ
ル山田赤尾ハヤノヤク濱ノ手ニニツリ城ハ入ル浅見
ハ寄手増田作右衛門カ手ノモノ村金六ト云モノニ近
付ユハ増田カ陳ニ入テ死テノカル後生取ニナレリト
ノ沙汰ニナレリ

本城ニテニナリテ籠城カナイカタケレハ今日十四日
和睦相ト、ノホリ高次ハ園城寺ノ内雲光院ニ入ノレ
ヨリ高野へ趣也

十五日朝細雨降 逆徒夜中ニ大垣ヲ立テ牧田

大垣ノ西南

ノ間道ヲコヘ兵ヲ關箇原ニ出ス石田三成ハ小關村北
山ノ尾ニ付テ陳ヲハル長篠ノ例ナリトテ陳ノ前ニヨ
イヨリ柵ヲ二重カニヘシム嶋左近蒲生倫中先手タリ
嶋津又七郎九茂助兵衛高野越中小野庄助丹羽五平次
安宅三郎右衛門以下宗徒ノ勇士ノ十ニ小關ノ南ニア
タリ一段小高處ノ山ノ尾崎ニ嶋津義弘八百餘騎其次

ニ小西行長安國寺ノレヨリ南ノ道筋ニテ宇喜多秀家

カ陳場也石原峠山中ニ大谷刑部少輔大將トノ北國勢

ヲノナニ平塚因幡守ノ田武藏寺ハ秀秋タラキリノヲ

サハトメ松尾山ヲ志シ引ノキテ備フ大谷刑部少輔子

大學助吉勝吉隆茅木下山城守頼継ハ逞兵ヲ率メ道筋

ノ東へ出向テ備フ大谷吉隆ヲサト鎧ヲ不着也

急ニ自殺ノ夕

味方ヨリ物見忍ノ輩今曉來テ告ケルハ逆徒大垣ヲ出

テニ方ニツカリ一方ハ佐和山一方ハ關箇原ヘテモ

夕躰ニミヘタル由テ告源若七御出馬アツテ野上ノ里

夕躰ニミヘタル由テ告源若七御出馬アツテ野上ノ里

ノ西挑配ト云山原ニ御旗ヲ立ラル赤坂ヨリ関關箇原
ノ北ノ山手ニ金持越ト云テ赤坂野上へ出ル間道アリ
是ヲサシフサクヘキ由命セラル先陣福嶋以下夜中ヨ
リ打立テ胴筋ノ道ヲ一文字ニ押出ス井伊本多相ツ、
イテ備ヲ、ス細雨霧ノカクシテ前後モ見ヘツカス胴
筋ヨリ黒田長政長岡忠興加藤嘉明筒井定次金森父子
平カ、リ也山中北國勢ノ方へハ藤堂高虎京極高政蜂
須賀長門守織田有樂同河内守津田長門守佐久間久右
衛門久六也

宇喜多秀家カ軍勢大軍ニ未夕不相詰ムラカリ行處
へ出合セ秀家カ兵ノ真中ヲツキワリコトク追討テ
秀家カ兵一番ニ敗軍ス細川忠興加藤嘉明關箇原ノ町
口ニテ未明ニ押出セ左霧ノカクメニハツカス兩人相
談イタシ霧ノハレニテ待合戦可仕間御旗本ヲツメラ
ル、ヤ夕ニト忠興カ兵澤村才八嘉明兵田邊秀兵衛ア
トへ使ニユキ樽井近所ニテ井伊直政ニアイ此旨ヲ云
直政此口上ヲ夕ケトリ面使ヲハカハス田中兵部少輔
吉政御旗本ニアリケルカ所ノ案内者ナレハ是非先陣
ヲ可仕由申システ、諸手ノアトヨリ間道ヲへテ小関

村へラシ出シ逆徒三成力陣へ切ラカ、ル三成力兵嶋
左近嶋津又七郎其外才田内記以下ニカク立ラレテ三
町ハカリシサリケルヲ細川忠興加藤嘉明突カ、ル所
へ黒田長政金森才川肥後寺岡田將監以下平カ、リニ
カ、ヅラ三成力勢ヲ切崩入忠興カ子與越中一号茅玄
蕃頭各戦功アリ秀家カ大軍福嶋ニ切崩サレ三成力逞
兵加藤黒田田中以下ニカク立ラレケレハ小西安園寺
秀家カ旗本悉ク敗軍ス嶋津義弘カ戦ストイハ厄大軍
ヤノレ立テト、ムヘキ手立七十シ
黒田長政ハ小關村ニタイラ三成力兵ニアタリノレヨ

リ筑前中納言秀秋カ子ヲ黒田ニタヨツテカヘリ忠ノ
旨ヲ請ケルユヘニ合圖ノタメ秀秋カ陳ニ至ル也
藤堂高虎ハ脇坂朽木等ヲラキリノ才寛カ子ヲ有之ケ
レハ北國勢ノ方へ出向家人藤堂新七郎先手ニキレ
朝カケイタシ頸ヲ得諸手ノ一番頭ナリトテ高虎カ兵
高橋金右衛門御旗本へ持参而ノ高虎北國勢へカ、リ
敵ヲツツ岩佐五助大谷吉隆ノ藤堂仁右衛門討取也
北國勢ハ秀秋カ別心ヲ知ケレハコレヲ第一トキアラ
スル慶ニ秀秋松尾山ヨリ大軍一同ニ北國勢ノヲラヘ
キリカ、ル平塚因幡守才田武藏守カ子ヲ心得タル丁

十レハ秀秋カ勢ヲ散々ニカクテテラス秀秋カ兵田中勘
左衛門布目新平以下討死ス秀秋大軍ナレハ是ヲコト
トモセス入カヘク相戦フ京極高政以下ノ北國勢ハ手
向ノ味方ヲノイタツ處ニ脇坂小川赤産栢木一同ニシ
ラキリシラケレハ北國勢立足七十クコトクノ敗北ス
軍半ナル時源君御馬廻ノ勇士凡一同ニカケ入テ相戦
フ伊丹兵庫頭河村助右衛門貞平藤兵衛村越兵庫於北國勢
死戦死ス小坂助六安孫子善十郎稍熊市左衛門兼松又
四郎坪内喜太郎長男惣兵衛二男加兵衛三男佐左衛門
四男太兵衛内谷理右衛門以下各力戦シ戦功アリ御旗

本ノ昵近ノ者ハ米津清右衛門小栗又一也西人凡ニ其

外切アル衆ハ皆上方衆也南宮之逆徒等不肯戦皆敗北

毛利家兵豫降為内應

井伊兵部少輔直政ハ先手木俣土佐守二ノ手鈴木平兵

衛ヲ備シメ宇喜多カ備ヘカ、リ大ニ戦木俣カ手ニラ

脇五右衛門中村與兵衛小幡勘兵衛兄弟戦功アリ直政

ハ下野守忠吉直政之聲ヲ供ナイニイラセ福嶋カ備ノ右ノ

方ヨリノリ出入福嶋家人可児才藏常以笹為差物俗號笹才藏長刀

ヲヨコタヘ他家ノ人ハ一人モ先ヘトラスヘカラスト

ノ、シリケルヲ直政ト源君ノ仰ニヨツテ先ヘ乍候ノ

夕メ出ルノ由云ナクメ則乗出ニ嶋津力陣ニカク入大
ニ戦ノ忠吉力戦シ玉フテ嶋津家人松浦三郎兵衛ト短
兵ヲ交引組テ落ツイニ松浦ヲ討取忠吉ノ兵嶋津九兵
衛馳来テ首ヲカク所ニ逆徒大勢ヲソイ来トイハ臣忠
吉ノ兵阿知羽角助等馳フサカリテ相戦井伊直政小栗
又市八方ニ相アタリ力戦ス忠吉組ノ十ノ時馬ハナレ
玉フ直政力家人武藤六大夫己カ馬ヲ奉ル初渡部彌五
右衛門来テ
馬ヲ奉ル處武藤来テ汝ハ疵ヲ忠吉十時十九歳
或云忠
吉ノ討
蒙レリトテ己カ馬ヲ奉ル玉フモノハ長尾新六也新六ハ長尾但馬守カ
子石田三成養子分ニテ呼ヨセ置ケルトソ
本多中務少輔忠勝ハ嶋津義弘宇喜多秀家力陳ニハセ

入カ戦ス忠勝秀忠卿ヨリ賜リタル或云此名馬自太閤秀吉賜之也三國黒ト云名馬ノ
長九寸アリケルニ乗テ四方ヲ下知ス此馬嶋津力兵ノ
鉄炮ニ當リケレケレハ家人堀全平己カ馬ニノセシ
ム忠勝力ニ男内記忠朝後任出
雲守生年十九歳勇力人ニス
ケレケレハ逆徒ヲ二人胴キリニイタシノツタル太刀
ヲ鞍ノ前輪ニテラシナラシ尚来ル敵ヲニツ本多力兵
山口主水永田角右衛門加藤忠左衛門吉原新助長野新
四郎青山三四郎各力戦シ本多力手八討取首数九十餘
也或云永田ハ養濃守忠政
ニ從テ上田表戦功
福嶋正則力兵福嶋丹波尾関石見長尾隼人可児才藏太

崎玄蕃喜多次郎左衛門松田下總吉村又右衛門梶田新
助後改福嶋式部林龜之助武藤修理仙石但馬以下戰功
アリ

石川伊豆守一番首ヲ得テ御感書ヲ賜

逆徒石田三成力家人嶋左進蒲生備中高野越中小野庄

助安宅三郎右衛門丹羽五平次各力戰蒲生備中ハ織田

有樂長益ノ兵千賀又藏是ヲツキタラシ有樂ニ頸ヲカ

カシム備中子大膳ハ田中力手ハ討取嶋左進力子新吉

ハ藤堂高虎力兵藤堂玄蕃元関自秀次家人秀次自殺ノ

ニ拓此度与別ノ留守ヲ預クトイハレ去蕃秀次自殺ノ
時逃レタルト存ノ必死ニキソメヒソカニアトヨリ

來レリ玄蕃関箇原ニテ著唐冠胃ト組テ新吉玄蕃ヲソ
是秀次力所與也又云高虎所與也

ソ玄蕃力家人赤尾ハ也來テ新吉ヲ打取新吉著星胃

大谷吉隆ハ秀秋カウラキリノ特度々ノカテアイニ利

ヲ得トイハレ北國勢コトクウラキリイタシ大谷力

兵下河原宗右衛門牧村三左衛門尉閑齋堅者古川太郎

兵衛池澤七郎兄弟弟佐久間勘右衛門若林八兵衛村木小

三郎平子清兵衛以下百餘人戰死シケレハ吉隆馬上ニ

テ自殺ス家臣岩佐五助吉隆母衣ノモノ也藤今錯メカ

夕ハラニサシヲキ戰死ス三浦喜太夫大谷力首ヲ三ツ

夕大谷力甥ノ僧祐玄ニソタス祐玄袈裟ニツ、ミ煙トス祐

後發居嵯峨與大谷癩病盲目面ミクル
シキユヘカ子ヲ祐去ニ申置ト云々

吉隆子大學助吉勝吉隆弟木下山城守頼繼ヲラキリノ
勢ニツ、ニレテ不殘ウタル大學助ハ乳人子橋本久八
カス、ノニヨツテ敦賀ノ城ヘカヘリケレ居城中ニ野
心ノ有多クレハ直ニ大坂ヲサシテ落行也
秀家カ兵明石掃部全登金森カ勢ト戦功アリ
嶋津義弘敗北シテ伊勢地ノ方ヘナダレクヅル、ヲ筑
前中納言秀秋カ兵稻葉佐渡守平岡石見守松野主馬三
人居ニ程々緋ノ具足羽織ニテ討テカ、リ相戦フ嶋津
兵力戦メ更ニクヅレヌ段々ニ引トル然ニ井伊直政カ

方ヨリハ遙ニヘタ、リケルカ南方ヘラス人数ハ敵カ
味方カト直政ヲタカフ松倉右近重正後任豊後守敵トミタ
リトイヘ居ワサトノラシラズシテ不告ノ所ニ直政カ
兵用州衆ノ内ヨリニキレモナキ敵ナリト云直政キイ
テ敵ヲ目ノ前ヲトラストヤアルトノ、シリニツ先ニ
カケ出ス直政カ兵相ツ、イテ戦フ所ニ嶋津カ兵ヲリ
シキテツ鉄炮ニ直政疵ヲ蒙テ落馬ヌコレニ因テ直
政カ備セメタリケルヲ関長門守一政初為大山ノ加勢後屬源君此度在
直政下知シテ備ヲ立ナシ兵ヲ一トノ追カ、ル嶋津
中務主徒十四五騎立留テ打死ス其内ニ義弘ハ伊勢路

ニカ、リ列取也

平塚因幡守為廣ハ秀秋カ兵ヲ、イナヒク其後自長刀
ヲ以テ小川カ兵挫井多兵衛ヲ討取テ其首ヲ大谷ニ
クリ其後自殺ス小川カ兵小川甚今コレヲ討取也因幡
守カ子庄兵衛七戰死ス為廣黃母衣ニ子千竹金ノスミ
トリ紙ノ指物十文字ヲ持
才田武藏守ハ子内記石田三成カ陣ニアリケルユヘニ
其行末ヲ見一筋ニ戰死スヘシト存三成カ陣ハ趣織田
河内守長存カ陣ノ前ヲノリトアル處ヲ河内守出向テ
鎧ツクル河内守兵矢田太兵衛鎧下ラク、リ才田カ左
ノアノミヲ取テ列カヘス才田馬ヨリ落ルヲ太兵衛ツ

ツイテクム河内守カ兵山崎源太郎落合テ首ヲカク取
ニ津田長門守カ兵玉木五右衛門ト云モノ此首ヲ奪ト
ラントス二人ノモノバイカヘス津田長門守アイウチ
ナリト云津田河内守織田河内守尾ニ知音ノ間ナレハ
何ヤウニセト云夫田山崎コレホト多キ頸ヲアイウチ
ト云イヤアルト云テ織田カ步行ノモノ清兵衛ニ首ヲ
モ夕セ御旗本ハ遣ス御寶檢ノ上ニテ武藏守カ首ニキ
ソール武藏守ハ知音多キモノユヘニ武藏守打死トキ
イテ各落涙スト也才田家人鶴見金右衛門モ一所ニテ
打死ス子息内記ハ三成カ陣ニテ戰死スル也内記カ子
村上周防

寺カ養子後ニ村上周防寺ト号ス
具足ニ鳥毛ノ羽織鍔ハ不持カ
石御加増科領養濃大野郡ノ内
也武藏寺ト知青十リケレ凡具足
也津田長門寺カ日記ニ諸將會談
長門寺討取ト云ハ非也
ノ内ハレナル打死ヲ可仕者ハ大谷刑部少輔
寺ナルヘシトイツレモ評シクルト也

今日逆徒ヲタル、有八千餘人源君関箇原ニ御旗ヲ立
ラレ群將皆出席關箇原御利運ヲ賀シ奉ル本多忠勝於
御前會釋ス福嶋正則軍功御褒養福嶋本多忠勝ヲ稱羨
ス而ノ松平忠吉下野手ヲ負玉ナカラ出玉ノ各忠吉ノ

働ヲ稱羨ス其アトハ井伊直政來ル源君直政カ疵ヲ蒙
シヲ御覽アツラ大ニ驚玉イ自御藥箱ヲメサレ御藥ヲ
賜其後村越茂介ヲ以テ筑前中納言秀秋ヲ召秀秋家人
十人ハカリ并ニ脇坂朽木小川赤座ヲ率シ秀秋芝ノ上
ニ跪テ御禮ヲ申上ル源君床机ヨリヲリ玉ノテ跪前ヨ
リ志ヲ通スル一ヲ悦玉ノ而ノ明目佐和山ヲ可乗捕ト
評談也秀秋則先陣ヲノソミケレハ仰付ラル諸大將勝
関ヲ執行レ可然トス、メ奉ル源君仰アリケルハ各ノ
人質大坂ニ有之間人質ヲヤカラ取モトシ各安堵ノ上
ニ勝関ヲ可執行旨仰アリケレ凡諸將シキリニス、メ

奉ルニ付テ則勝関ヲ執行今夜ハ藤川ノ上木谷吉隆力
小屋ノアトニ御一宿則秀忠卿ハ御使ヲ被遣也井伊直
政ハ井増村ニ傳ヲハル

今日早天ヨリ水野勝成曾根ヲ出テ嶋津力陳城樂田ヲ
押破リ直ニ大垣ヲ攻ム敵兵出テ戰フ凡ノ籠城ノ兵七
千五百十五日ノ朝早々二ノ九ニテ乘込亦左衛門勝成
則関箇原ハ大垣ノ城乗取本丸ハカリニイ夕ニ候事註
進仕ル関箇原御一戰ハシニラサル内ノ丁工ハ源君大
ニ悦玉ノテ使ノモノヲ御前ハ被召出黄金壹枚ヲ賜
本丸門隙ニテ城兵夕テ出サレ寄手トセリ合勝成力兵川

村縫殿同新八中山將監神谷久右衛門近藤夫之助上田
清兵衛松浦六兵衛所々ニテ戰功引取トキ町屋ニ火ヲ
放テ林ト云寺内ニテ^{大垣}ノ北引取松平丹波守康長七大垣
取出ノ柵ヲ破リ城キツヘ兵ヲス、ム勝成力引取所ヘ
丹波守行合テシニカリテ請取城中ヨリキヒシク付テ
危カリケレヒアトニ火ヲ放テ無子細引トル丹波守モ
池尻ヘ不引取林ニ陳ヲハル今日町中惣力ニハテ乗取
也西尾豊後守光教ハ大垣北領家村ノ地侍久瀬助兵衛
ヲ大垣ニ付置ケレハ此有來テ今曉ニ成関箇原ヘ出張
ノ了ヲ告則大垣ヘ押ツメ大手ヨリ攻入家人小寺半兵

衛惣門ノ南ノソキヨリノリ入ントスルヲ城中ヨリ鎗
三筋ニテ突殺シ門ヲ開テ戰寄手付入ニセントス城兵
七人出合テセリ合西尾カ兵村田長兵衛西尾掃部丹羽
彌左衛門敵ヲツツ而メ西尾宗兵衛同掃部大橋惣右衛
門佐治久左衛門松岡兵左衛門五人城中へ立コニル西
尾掃部松岡兵左衛門ハヤフヤク門外へカクヌク久左
衛門ト惣兵衛ハ城ノラクヘニキレ入西尾惣兵衛城中
ニテウタレヌ佐地ハ木村宗左衛門カ兵ニ知人アリテ
搦手ヘノカレ出テソノ夜ヒソカニ城外へ出ル也大橋
惣右衛門ヲ木村カ手ヘ討取福原方敵ノ頭一ツ取
有ニ金一枚ヲ與ユ

十六日源君佐和山ヘテモカセ玉ヲ正宝寺山ニ御
著

佐和山ノ城寄手筑前中納言秀秋北陸道降参ノ諸將相
加リテ攻之福嶋正則以下ハ高宮越智川邊ニ陳取テ後
陳ノ胴勢タリ城中本丸ニ石田隱岐守晴成三成父蒲生
秀行家人蒲
生左近卿
可力下人同木工頭重成三成同左近朝成三成
重成
子宇多下野
守頼忠三成之
妻父同河内守頼重頼忠
之子守之カ、リ尾ニハ山
田上野赤松左兵衛北ノ水ノ手ニ河瀬織部中ノ丸ニ養
壽院也寄手秀秋カ、リ尾ノ丸ヲ攻破北ノ丸川瀬カ持
口七ヲシヤフラレコトク本城へ引入城兵長谷川右

兵衛ウラキリノアツテアハレ右兵衛ヲウタレト
ス右兵衛水道ヲク、リ逃レ出ツ、ノノ城ハカリニナ
リテ晩日ニ及フニ付寄手秀秋等カ軍勢引トル此特城
ノ門ノナリタルヲトニラト口キ雜兵キ、クツレイタ
シ秀秋カ兵大ニミタル箱葉佐渡守フミト、ニリ諸卒
ヲ下知ス松野主馬カ寄カ等二三人松ノ木ヲカタトツ
テ立トニル其外大ニサソキテ旗ヲスラ兵器ヲスラ、
引トリケルト云々又去欽炮藥筈ニ火入矢倉一ヤ
クアツ此特寄手大ニ敗北
山岡道阿弥江川甲賀ノ兵七百八十騎ヲ率メ福嶋掃部
頭正頼カ籠タル勢川長嶋城ニ楯コモル十五日關箇原

敗北ノ事キコヘケレハ山岡長嶋ヲ引拂船ニテ伊勢國
麻取ノ里ノ南大島居ヘコキヨセケル處ニ十五日ノ曉
夏東大藏大輔正家關箇原ヲ落テ大嶋ニアリケルヲキ
キ道阿弥手勢三百ハカリニテ大嶋ニラシヨセ大ニ戰
ノ長東敗軍メ逐電ス大嶋ハ長嶋ヨリ
二十餘町南東十六日山岡又來
名ニラシヨス氏家内膳正行廣和ヲ乞テ城ヲワタス兼
名
ハ長嶋ヨリ
廿四五町南ソレヨリ山岡又神戸城ニ趣ク羽柴下總守
勝雅和ヲ乞テ城ヲワタス兼名ヨ
リ四里山岡又龜山城兼名ヨ
リ八里
ヘラシヨセ岡本下野守ニハラクサ、ユ山岡急ニ攻テ
城ヲ取

十七日佐和山城落石田父子自殺石田桃雲介錯ス宇多
下總ノ尾藤善四郎介錯ス城一時ニ焼失城ニハ中納
言秀秋在番ス黒田長政カ兵後藤又兵衛サシノフ

伊豫國真崎城ヨリ三津ニ夜討真崎城ハ加藤左馬助嘉

明カ城也嘉明ハ関東へ出張スノノアトハ毛利輝元カ

兵士完才善左衛門曾根兵庫頭船奉行村上掃部野嶋等

藝州ヨリ五々嶋ニイタリ先使節ヲ真崎ニツカフニ城

ヲ可渡ヨシヲ告城ノ大將加藤内記左馬助嘉明才関箇

賜ルノ特内記豫州即從佃次郎兵衛中嶋庄右衛門安達

半右衛門尉等ヲ以テ一戦ヲトクヘキニ定メ毛利家ノ

使者ニ返答ニモ不及因此輝元カ兵船ヨリ上リ三津ノ

浦ニ陣ヲハル佃等相謀テ今日十七日ノ夜毛利カ陣ハ

夜討ヲナス毛利家曾根村上野嶋各討死ス城兵荒川甚

右衛門井上加之助討死野上討佃七深手ヲ負嘉明カ妻

女為人質大坂ニ有之ユハ始終無心許トテ川村権七ヲ

大坂ヘツカフシ様子ヲ窺ハシムコハニ當國ノ佳住人平

岡善兵衛浪人ニテ居クルカヒソカニ毛利家ニ内通セ

シメ毛利カ兵引入同國江原城ニ取上ル真崎ヨリ加藤

内記兵ヲ出三津ノ所江原ヨリ輕卒ヲ出メセリ合九月

十九日江原ヨリ薊田イタシ在々ヲ乱妨真崎勢コレヲ

追立逆徒久米如來寺ニ入ル真崎勢ツ、イテ攻之カ戰
黒田久兵衛表ヨリ押入佃ノ裏口ヨリ打入黒田并飛松
兵助川合九郎兵衛戰死各真崎兵由之三津ヲサシテキ先江
原ヲ可攻ト評議ノ所毛利家ノ兵士平岡孫右衛門藝州
ヨリ三津ニ來リ弟善兵衛急難ノ由ヲキ、江原ニ欲入
自三津行程四里真崎勢速之トイヘ尼平岡兄弟江原ノ山後ヲ
一ツリ三津ニ歸ル真崎勢空手メケリ毛利力兵ハ漆山
ニ在陣然所上方逆徒敗北ノ了キコヘ毛利勢悉藝州ニ
引入

上杉景勝兵永井口ヨリハ直江方篠原七郎中山口ヨリ

穂村造酒丞横田式部兩人米澤ヨリ上山ニ發向ス上山

城ニハ山形ノ里見越後寺在城越後寺在山形于民部大夫在城寄手川

口村藤五村赤坂村高松村ヲ放火上山ノ地侍所ノ者防之放火ノ火付ヲ打取

藤五村ノ近内川口村ノ次右衛門高松村ノ岩瀬助左衛門皆取首城兵出向双方足輕也

リ合アリ米澤方森作左衛門鎗ヲイタシ上山方大勢突

立ラル森鉄炮ニアタリ戰死寄手山ヲカタトリテ

イテ備エ上ノ山ノ地侍尾馬ヲ入テ米澤方悉敗死穂村

カ馬ツケス一イヲイタシテレハ急ニ不乘馬ノ内ニ

坂野弥兵衛引組テ谷ニ落ツイニ穂村夕タル双方谷底

カレテ勝負不叶ノ坂野カ家僕ノセ付打之横田ハ上ノ臺ノ入タルイ澤ノ

左大澤ニテ味方ヲ一トメ引取横田家人万弥與左衛門
人立留速追來敵

凡夕タル、七ノ篠弥七郎ヲハシメ二百余騎未澤方新

宿吉兵衛一方ノ大將ニテ相木ヨリ小穴ノ道ヲ山ト云

ヨリ兵ヲ出ストイハル中山口ノ向將敗北ニ早々引

トル也自上山迄山形三里自中野迄山形
一里半中野城本間左馬助守此

十八日源君江別八幡ニ著御

大垣ノ城内秋月長門守種長カ家人水野勝成カ家人ニ

所縁アリケレハ關東へ内通ノ一ヲ乞相良宮内高橋九

郎皆同心ス是ニヨツテ十六日ノ夜水野勝成松平丹波

守兩人方へ高橋相良秋月三人ノ名付ニテ狀ヲコシ内

通シ城將ヲ夕タシ一ヲ云事ト、ノホラハ首ヲ持サイ

ヲフルヘシソノ時各ノ旗一二本城中へ可被入サナク

ハ味方ホニアフヘキツタカイアリト云越ス則六左衛

門丹波守約束シ水野カ方ヨリ鈴木與人即ニ旗二本ノ

へ可遣丹波守七ノノ通ニ約ス右三人ノ城將三郭ヲ堅

メタル備中丸
ト云垣見和泉守熊谷内藏元木村惣左衛門ヲ

招コレヲ殺シ今度ノ忠節ニセント相談シ今日三人連

署メ相誓而メ垣見熊谷ヲ一子キヨセ無子細殺害ス惣

左衛門及子傳藏ハ不來ニハニ兵ヲツカワシコレヲ討

取或云間者ヲ
入テ殺ス而メ此四ノ頭ヲ七夕相良兵部ヲ使ト

ノ寄手ニソ夕ニ約束ノザイヲフル是ニ因テ水野亦左
衛門勝成松平丹波守康長急ニ攻ヨセ二三ノ郭ヲノリ
ヤフル本城福原右馬助堅ク守リ家人南部助之丞本丸
大手ノ橋ニ出アトノ門ヲ夕テサセ足輕ヲカケテ相防
クユヘ急ニ攻入リ不叶林ヘ引トリ對城ス

十九日源君江州中津ニ著御 勅使コ、ニ来聘ス

逆徒敗北ノ落人京都ニ入京都騒動ノ由京都ノ町人亀
屋永仁茶屋新四郎以下中津ニ来テ言上其外洛中ヨリ
其告アリケレハ則奥平義作守信昌ヲ京都ニツカワサ
レ洛中ノ騒動ヲシツメラレシ過々ニ制札ヲ立甲乙人ノ

乱妨狼藉ヲアラタメシム今日近藤登助伊奈圖書加藤
源太郎ヲ日ノ岡相坂ノ関ニツカワサシ味方ノ軍勢京
都ヘ乱入ヲカタメシメ玉フ

福嶋正則カ即徒佐久間加左衛門使ニ行テ右相坂ノ関
伊奈圖書カ組根来張番ノ前ヲトラルトテアヤニツテ
株ニ脚ヲ蹴アツル根来株ヲ以テ脛ヲ打佐久間無子細
カヘリ使ノ趣ヲ正則ニ告テ右ノ次第ヲ正則ニ云當座
ニ有合根来五人七人切フスル丁ヤスシトイヘ正則
ノ御夕ノイカ、ト不及其義由ヲ云テ自殺ス正則彼カ
首ヲ伊奈圖書カ方ヘ遣ス伊奈大ニラト口キ則イツレ

モ相談ノ上ノノ場ニアリ合根来六人カ頸ヲ刎テ正則
ニ送ル正則是ヲ見是ハ足輕ノ首トミヘタリ圖書腹ヲ
切ラズシテハ不可叶ニキワマリ成瀬小吉米津清右衛
門板ニ行ノノ後村越茂助行テアツカフトイヘル事ナ
ラズ圖書遂ニ切腹ス

小西行長十五日戰破レテ後伊吹ノ山ツ、キ糟川ト云
深山ニカクレ居ス関箇原落去シ糟川谷へ落人アリシ
風聞シケレハ同國池田郡ノ卿人庄背カケアツマリテ
落人ヲサカシ衣服甲冑ヲハギトル關箇原ノ佳^住人相川
林藏主ト云禪宗ノ落墮セル坊主今度ノ兵乱ヲサケテ

糟川ノ谷ニアリケルヲ行長見付トテモ野伏居ニ生捕
レシトテ思テ林藏主ヲヨヒヨセ有ノ一、ニ名氏ヲ名
乗リイ、ケルハ我ノ南蛮^{ビズ}耶蘇ノ法ヲ守ルユヘニ自殺
セサル也汝イノキ我ヲ召トリツレ出ヘシ、カラハ恩
賞ニ可預ト云小西カ供ノモ六人アリ彼等カ身ニ付
タル金銀ヲ不殘林藏主ニソタス林藏主是ヲ卿人庄ニ
ソカキ與ヘ即竹中丹後守重門カ家人伊藤次左衛門後
藤市左衛門岩手ノ城ノ留守ニアリケルモ、方ハ告
兩人來テヤカテ小西ヲ生捕十六日ノ夜岩手ニ入置十
七日佐和山ヘソタス而ノ佐和山黒田カ兵士後藤又兵

衛方ヨリ草津ノ御本陣へ註進ス岩手ヨリ竹中丹後守
方へ告ケルユハ則丹後守方ヨリモ言上ス十九日小西
佐和山ヨリ来ル是ニ両方ヨリメシトルヨシ註進ノ義
ヲ夕、サレ竹中ニハ小西行長カ所持ノ刀并御感書ヲ
今日十九日被下林藏主ニ黄金十枚ヲ賜ル小西ハ村越
茂介吉直ニアツケラル

黒田如水去ル十六日ヨリ豊後安岐城ヲ攻此城南北へ
長ク東ハ海西ノ方ハ山甚近シノノ中間ニ堀ヲホリ要
害ヲカニハテ堅固ノ平城也熊谷内藏允カ一族熊谷外
記是ヲ守ル如水カ兵馬移喜右衛門一年外記ト一死ニ

下柳伊豆守直末カ家ニ仕ヘテ旧友タシハ如水則馬抄
ヲ以テ和ヲ入シム是ニ因テ城中ヨリ平野勘左衛門ヲ
使ニ出シ惣勢ヲ夕スケラレハ外記一人自殺可仕ノ由
ヲ乞ニ付テ今日十九日和ヲユルニ城ヲ夕ケトル外記

七降参ス 或云
七日

廿日源君大津ニ著御
石田三成カ家人小幡助六ヲメシトル三成カ居所ヲ尋
子シムトイハ凡在所存スレ凡不可云ト堅ク云キルニ
付テコレヲユルサル小幡縹緖ノ恥ニアス丁ヲ去ラツ
テニ自殺ス

廿一日大津御逗留今日池田輝政淺野幸長藤堂高虎井
伊直政本多忠勝ヲ大坂へ被遣テ毛利輝元増田長盛ヲ
追討セラル

廿三日大津御逗留

大垣本城ハカリニテ今日ニテ持カタム其内三箇度ニ
及ニ城攻アリトイハレ城兵堅守而ノ和談ヲ入木野六
左衛門方へ加々井弥八郎カ子大垣ニコモル此有テ出
シ降参ニライテハ地忍分ニ一萬石ヲ申與へ無相違可
申宥ト西尾豊後守光教取テツカイケレハ福原同之今
日廿三日福原剃髮深衣ノ姿トナリ道蘊ト改名シ城ヲ

出ツ西尾カ方ヨリ谷清兵衛ヲ人質ニ出ス福原谷ヲノ
シツレ勢川朝熊へ行西尾コレヲ、クル廿七日アサニ
ニ著テ福原方ヨリ書テ西尾ニ送テ禮謝スノノ後切腹

ニキツ一リ自殺ス 大垣城松平
同防寺在番

石田三成被召捕今日廿三日大津ノ御陳所へ来ル三成
ハ十五日軍敗ル、ノ後伊吹山ヲコヘテ逃亡磯野平三
郎渡部勘平塩野清助三人供ヌ小谷山ヲ經テ馬上山ニ
至リ三人ノ有テカヘシ三成身ヲヤツシ幼少ノ手習ノ
師三重院ト云僧アリコレヲ夕ノニ行三重院事田中兵
部少輔吉政井口ニテ来テ山野ノコル處十クサカニ三

或云三成ノ
鳥居又五郎
成次ニ賜ル
是彼父ノ仇
ナレハニ成
次請取一夜
程々馳走型

重院ヲカラノ捕ヲ井口ニ行シト云ユハ三成又山林ニ
カクレ四月食ヲ断シ中木ノ葉ヲク口ノユハニ腹中ヲ
煩ノレヨリ古橋村ノ與次郎大夫カ方へ尋行テ夕ノム
與次郎毎日食ヲツ、ケ、レ厄久敷カクス、難叶コト
ニ三成病氣ニ付テ行歩不叶ヲ以テ與次郎ニ申付テ田
中カ方へイワシム田中カ方兵田中傳左衛門澤田庄左衛
門來テ生捕井口へ召連田中吉政カ家人宮部善久ヲ馳
走人ニ付テ今日大津へ來也則本多上野介正純ニ了ツ
ケ玉ノ或云井口ノ半福寺村寂院手習ノ師ユヘコ、
ニ三成來ルト云ハ厄寂院不入ニ付テ進飛ノ
茶園ニカクレフスノ所三成劫少ノ時見知レル野々ト
云百姓中刈ニ來テ見付ケ、レノ三成シカク去野々別

日コレヲ返
シ奉ル元忠
於伏見忠死
何必仇彼云
成次ハ元忠
子人
又云秀忠公
ヨリ大久保
忠隣サシク
ソ、リコレ
アマソカル

淡飯ヲ與へ置ク田中四方ニ高札ヲ立テ三成ヲサカス
ニ付ツイニカクルハカラサレハ野々カ妻ヲモト去モ
ノ夫婦相談メ田中カ方兵田中傳左衛門ニ告ル傳左衛門
イケトリケルトキ三成懐中ヨリ一尺三寸ノキリハ兼
真ヲ取出メ田中傳左衛門ニ與ユ田
中召ツレ大津へ十九日ニ出ト云

安國寺惠瓊ハ濃州ヨリ大原志津原ニカクレ鞍馬寺月

照院ニ忍居ル京都ノ奉行奥平義作寄信昌松平下總守

清匡コレラキ、出シ家老山田半右衛門ラツカワシ東

福寺ニテ生捕村越茂助吉直ニ預ラル又云安國寺一向

居ヲ召捕テノリ物ニノセツレユクヲ見物ノモノ、内
ヨリノリモノ、外へ首ヲ出ス所ヲ安國寺ヲキルキラ
レテ安國寺ノリモノへ引コム警固ノ者厄右ノキリシ
モノトモテヲ斬罪ス此者元安國寺カ家人平井藤九郎長
坂長七ト云モ也安國寺此度イ、ケルハ單敗レハ生
捕レ法師ノ罪科ニアハシモ見苦シカルハシ傍ヨリ出

テコレヲ害セヨト云付置ケレハ也安國寺家
人一人ハ山田半右衛門クミトメタルナリ

立花左近將監宗茂今日柳川ニ著宗茂ハ大津ノ城ヲセ

メラトスノ後十五日関箇原落去ノ由ヲキ、十六日佐

和山ノ煙ヲミテ則京都へ出三條御幸町ニ備へ木下肥

後守カ許へ使ヲ立大坂へ出ラレハ同道可仕ノ由ヲ云

ヲクリソレヨリ大坂ニ下リ天滿ニ陳ヲハリテ輝元長

盛カ方へ使ヲ立去ヲクリケルハ我關箇原ノ一戦ニア

ワス輝元當城ニツイテ防戦アラハ則一方ヲ兼テ可捕

籠云クレハ輝元不肯仍テ嶋津ヲ待合セケレハ嶋津義

弘モ十七日ニ大坂へ來ル則嶋津カ元へ使ヲ立テ當方

ニテ一戦アラハ此ニ相文ユヘシト云ラクル義弘於關

箇原大勢打死セシメケレハ不可叶ト云十七日ニ大坂

ヲ立北一月筑前岩松ニツク今日北三月柳川ニ著也

北四月大津御逗留

今日秀忠卿信州ヨリ江州中津ニ御著或云北日関箇原落去

ノ旨信州へ御使アリコノユヘニ森右近大夫忠廣ヲ信

州ニノコシラカレ御歸陳也此時九子筋ハ近シトイハ

ハ真田カ領分ナレハ若付丁モアルヘシトアツテ長久

保へカ、ラセ玉ノテ高陽ノ地ニ御本陣ヲスヘラレ諸

手ハ首澤ヘテリテ陣トル真田左衛門幸村モノニニ出

今夜々討之可仕掛ト去ケレハ昌幸思案ノ上方ノ敗
軍無心元上方敗軍セハコトニテ大利ヲ得テ益アルヘ
カラスト去テ留メタリト云ク或云此時柳原康政ノ一
也公康政ノ一キト仰アリシトナリ秀忠卿中津ヨリ大津ニ至リ玉
ノ源君御對面ナク又中津ヘカヘラセ玉フ是ハ真田ヲ
攻メトシ玉ハサル丁ヲ源君憤ラセ玉フナルヘシ廿五
日又秀忠卿中津ヘ御越此日御對面アリ其後秀忠卿大
久保助右衛門ヲ召真田ヘ参リ申上タル口上相違ノ由
ニテ御勘氣也又云秀忠卿九月十三日ノ御書ニ東表仕
トアリ然ハ関箇原御一戰前ニ上田表引拂ワセ玉フニヤ

今日廿四日筑前中納言秀秋へ今度ノ忠戰ヲ被感御書
ヲ賜フ

今日毛利輝元降ヲ乞テ大坂西丸ヲアケ木津ノ下屋敷
ニ至ル吉川カ子ヲ關東ヘ内通ノ丁アリケレハ其罪ヲ
ユルサル

廿五日 大津ニ御逗留

今日秀頼卿ヨリ大野修理亮治長柘植大炊助ヲ大津ニ
テ使節トメ此度三成力逆意毛頭不被存ノ旨ヲ陳セラ
ル秀頼卿存シ玉ハサル上ハ少シ秀頼卿へ等閑アルニ
シキヨシ被命大坂御和睦也

今日增田長盛大坂ノ城ヲ出テ高野山ニ趣高野山ニ二
付ハ流罪子矢大夫盛次尾州義直ニ仕大坂ニクニシ元
和元年五月六月於大坂有死因之五月廿七日長盛於配
所伏 誅

廿六日大津御逗留今晚源君中津へ至ラセ玉テ秀忠卿

ニ御密談也明日大坂へ御發向ニ付テ大津城在番大須

賀出羽守忠政五郎左衛門康高男松平甲斐守忠良因幡守康元男ニ仰付

ラル或去今日自大津淀ニ御一宿去々出御年譜

前田中納言利長今日廿六日金澤ヲ立テ小松ニ至リ丹

羽長重ト人質ヲ取カツシ黙礼アツテ越前へ打越利長無子

牙利常九歳小名猿為人質長重牙ヲ以テ人質トス青木紀伊守カ子ヲ関東へ内

通其上其身病氣ニハ北庄無子細青木紀伊守卒子右衛門佐領地没収

付テ越前一國平均也

廿七日源君大津ヨリ今日大坂西丸へ渡御廿日ヨリ昨

廿六日ニテ大津ニ御滞留也大津ヲ立セ玉テ特藤ノ森

ノ邊ニ酒井河内守重忠舎身備後守在陳御目ニハ乃而

人モ大津在番ニ仰付ラル

今日廿七日黒田如木及畠表城此城東北ハ海西南ハ山

近メ堅固ノ要害也垣見和泉守カ一族垣見理右衛門同

助左衛門和泉守兄九兵衛父子堅守之如木カ兵黒田圖書同

伯耆守軍法ヲソムイテ又テカテ寄手大ニ夕夕ル此所

へ於大垣垣見生害ニ付家人厄ノカレ來ルソノ内江
良新右衛門ト云和泉寺カ祐筆出來ル此者ヲ召捕和泉
寺カ狀ヲシタ、メサセテ城無別糸可渡旨ヲイ、ヲク
ラス其後江良ヲモ城中へ入ケルニハニ城遂ニ廿八日
ニ陷也助左衛門九兵衛ハ戰死ス

今日豊後姫嶋ニテイテ嶋津義弘カ船類船ニノリヲク
レタルヲ如水カ舟手ノ野嶋カ一黨庄林七兵衛ナトヲ
シヨセテ姫嶋ヨリ佐賀関ニテ十里ノ間互ニ相戰フ嶋
津カ船ホウロク火矢ヲナクソコナフヲ燒失三艘厄ニ
ヤキワル嶋津義弘大坂ニ人質ニラケル母儀ヲノセ夕

ル船也母儀コ、ニテ卒死

廿八日勅使院使并公家門跡等ノ使節其外悉西九ニ至
テ關箇原御勝利ヲ賀ス諸大名ノ家老凡御札

十月朔日石田三成小西行長安國寺大路ヲワタシ六条河

原ニテ頸ヲ刎三條河原ニ獄門ニカクル三將囚ノ内ニ

時服ニツ死ヲ賜フ或云三成囚テ在京ノ間四條ノ町人

ケルハ某日此三成思願ニ預ルノ間此度見廻申度ト云

信昌免之而ノ正樂柿ヲ歩シ包ニ懐中ノ三成ニ與ハ三

成日此ノ懇過ヲ謝シカハルトキ番人凡聞所ニテ去ハ

ルハ日比三成思願ノ了ナリトイハ凡諸道具以下我等
所ニ歩七預リ不申候以來ニテ直ニ三成ニコトナリ候
間番衆被得其意候様ニト云三成其通りナリト對テ去
テルハ我罪死ノ後尸骸ハ紫野大徳寺春屋ニ
綱メ玉ワルヤ夕ニ云ハシト去送りケリトソ

允逆徒嶋津義弘ハ入江推右衛門

攝州住人入江左近ノ甥也三成方ヨリ嶋津

方ハ飛ノ案内者ニ遣シ目付心ニ有之ヲ案内者ニシテ土岐多羅越ヲイタ

シ江州多賀ノ里ニライテ所ノ者ヲ百トリ案内者トシ

テ高官河原ニ野陳ヲハリ亂妨ノ牛馬ヲ奪イ食物トシ

牛ノ皮ヲハキトリ馬印トシテ大津ニ出敗軍ノ兵ヲ一

千ノ口ヘソレヨリ十七日ニ堺ノ津ニ出入江孫右衛門

ト云町人ノ所ニ落著堺ノ町人田邊屋策菴道與ト云モ

ノ大坂ニ出テ嶋津力人箕母義内室ヲ又スニ出シ住吉

ノ濱ヘ至ル母儀ノ舟道ニテ黒田如水カクメニ破却事ハ九月廿七日ノ條ニ出也川口雲

右衛門ハ嶋津中務力者也堺ニ至リ中務打死ヲキイテ

ソレヨリ入道ニ高野へ行中務母儀雲右衛門力妻子ヲ

皆コロセリ

宇喜多秀家ハ十五日敗軍ノ後伊吹ノ高山ヘ逃アカリ

山傳ニ羨濃ノ糟河ノ谷ニ入中山ノ郷ハ十六日ノ未明

ニ夕トリ付供ノモノ二人也コハニ羨濃池田郡自樫村

矢野五右衛門ト云モノ落人亂妨ニ行テ秀家ニ行合テ

イカハ思ケン落涙シ此人ヲ助ハヤト思道ニルハ申サ

ントテ召遣シ九藏ニラツセニイラセ三里ハカリソ所

ヲ暮方ニ自樫村ニツキ帳内ニ入テ飲食ヲ夫婦二人シ

テハコヒ又秀家下人二人ノモト談合メアリノ一ハ

ニ五右衛門ニカタル供ノ内一人ハ本多左兵衛督ト云
モノカイクシクイタシテ五右衛門ヲ頼ミノ身ハヤ
カテ関東へ才覚ニ下ル五右衛門岩穴ノアリケルニ秀
家ヲ入晝夜ツカヘケル秀家七首ノ狂哥ヲコ、ニテ讀
ケル日數ヘテ五右衛門アソクシラヘ秀家ヲノセ
病人ノコトクコシラヘ江州武佐ニ至ルソレヨリ伏見
京橋ニ著テ船ヲシツライ大坂へ著天王寺ノ寺内へシ
ルヨシアリテカクレ秀家ノ屋敷へ案内シツイニ屋敷
へ入内室ニ對面内室ハ加賀大綱言利家ノ娘也五右衛
門ニハ引出物トメ黄金三十枚奥方ヨリ小袖二重夕ニ

ソリテカヘリ又其後西國嶋津ヲ夕ノニ落行後嶋津御
歎申候テ八丈嶋へ被流也比本多安房寺政重宇喜
ノ蒙坂本ヘノキ後案内ノ
嶋津方ヘノカシメタリ
長曾我部宮内少輔盛親ハ一旦土佐へ逃ルトイハ厄井
伊直政ニツイテ色々降ラ乞ソノ上今度逆徒ニクミス
トイハ厄サセル働七十キニ付テ一命ヲ夕スケ被下直
政ニ命セラレ鈴木石見守ヲ土佐ニツカワシ長曾我部
カ居城ヲウケトラシムシカルニ土佐ノ地下一領具足
馬廻ノ厄一揆ヲ起ス鈴木石見守雪溪寺ニ陳ヲ取前一
揆厄ラシヨセ攻之レトス蜷川新右衛門親長入道道標

長曾我部カ老臣ト示シ合セテ一揆悉退治セシメ首正
ヲ大坂へ献リ其後鈴木石見守城ヲツケトル也

長束大藏大輔正家カ居城江州水口ノ城ニハ長束伊賀
守籠城ス寄手池田備中守長吉魁政コレヲ攻トイハレ

要害堅固ニメ不落城備中守和談ヲ入本領安堵セシム
ハキ由堅ク勅諾ス是ニ因テ城ヲツタシ江州櫻井谷ニ

蟄居ス長束正家モコ、ニ来リシヲ備中守ヤカテ押寄
テ自殺セシム正家カ家人奥村左馬助西川兵庫介小西

次左衛門長束與十郎コ、ニアリ伊賀守ヲハ林甚藏介
錯スツ、イテ自殺セシトスルヲト、メラキ正家ヲハ

奥村左馬助介錯ス左馬助セツ、イテ自殺セシト腹ニ

刀ヲ立タルヲトリト、ムル也左馬後仕寺
澤志摩寺

増田右衛門尉長盛ハ放高野出九五
日條郡山ハ初中綱言秀

俊卒去ノ後太閤秀吉ヨリ増田右衛門尉ニ領知二十萬

石ヲ賜リ郡山ヲ領シ紀伊太和和泉三箇國ノ代官タリ

コレユヘニ關箇原ノ時分長盛自分ノ侍千騎也郡山大

事ノ地ユヘニ七百騎ヲ殘シ三百騎ヲメシツレ大坂城

ニ留守居ス關箇原落去ノ後郡山ノ地侍凡一揆ヲ起シ

郡山ノ町口へ押入放火亂妨ス此時渡邊勘兵衛三ノ

郭ニ有之一萬俵請事ニカニワズトイハレ右ノ通ユハ

渡邊指圖ニテ諸侍ノ人質ヲ本丸へ人兵士ニ三百ヲ出
ノ一揆頭片ノ人質ヲトリ人質不出セノハコトクク誅
乏郡山ノ五町目口ト云所ニ獄門ニカクルユヘ一揆大
方静ニル然所ニ城ヲウケトリノ夕メ案内者トメ筒井
伊賀守ニ藤堂高虎相加里玉水ニテ自郡山来テ使テ立
ツ筒井才覚ノ重テ地下人ヲ、コサセ一揆セシム渡邊
勘兵衛ニ三百ノ兵ヲツレ出テ卿人四五討取テ又頸
ヲ獄門ニカクルユヘ筒井藤堂無左右ヲシヨスル一不
叶ニ付此事ヲ長盛方ヘ云遣ス長盛方ヨリ高田小左衛
門ト云出頭人ヲ郡山ヘ指越無相違可渡城ノ旨自筆ノ

状ヲ勘兵衛方ヘ遣シ郡山ヲワタス也ワタストキモ請
取ノ衆約束ヲ千カヘタルニ付城ヲワタスニシキト重
テコトワリ請取衆難義ニ及ヒケルヲ南都興福寺大衆
院門跡アツカイヲ以テ是ヲワタス也

石川備前守ハ福嶋正則ニ降メ犬山ヲアケ渡シ伊勢ノ
浅熊ハ趣ケルカ道ヨリカハリ関箇原ノ戦ニ三成一所
ニテ十五日ハ本多三弥ニワタシ合ス其後敗軍ノ越前
ノ方へ落行朽木コハニ上リ京ノ町人トラヤト云セノ
ノ所ニ十月十六日ノ夜半ニ行十九日ノ夜腰ニ付タル
黄金十枚ヲトラヤニ與ハ竜安寺ノ山ニ一月一夜居妙

心寺へ行ハ十一月ニ大坂へ下ルソレヨリ池田輝政カ前
へハシリコミテ一命ヲ乞輝政執シ申シ死罪流刑ヲナ
タメラレ輝政ニ被下石川本曾福嶋ノ人莫ラ不殺福嶋
へ歸セシニ因テ即命セラル
石川掃部ハ大津ノ寄手タリ脇坂ニツイテ命ヲ乞トイ
ハ片不叶十月十一月首ヲ刎ラレテ獄門ニカケラル
小野木縫殿助福知山ノ城主也逆徒ニクミシ丹後田邊
ヲ攻取レリ今日長岡以下福知山ヲセム小野木ツイニ
和ヲ請テ出十月六月龜山ノ浄土寺ニテ自殺其頸獄門
ニカケル或云十月十
八月云々
鍋嶋信濃守父加賀守直茂使者ヲ奉リ源君へ申上ケル

ハ信濃守父ノ異見ニ不從逆徒ニ與シ罪狀不淺ノ間御
下知次第可罰之但先年伏見騒動ノ時分直茂源君ノ御
屋敷ニ入テ無ニ心守護シ奉リケル事不被思召忘ハ可
預厚免ノ旨ヲ乞源君宥免シ玉ノ
真田安房守父子森右近大夫忠政ヲ以テ秀忠卿ハ罪科
ヲ陣陳ス伊豆守信之味方ニ馳加軍忠ヲ拔ニ一カセ御免
アツテ高野山ニ蟄居ス
山崎左馬丞逆徒ニクミストイハ片関箇原以後池田輝
政ノ内室并息左衛門佐藤松丸後任官
内少輔ヲ居城攝津國三
田へノケヲキニ因テ本地ニ一萬石ノ御加恩ヲ賜山

妻有輝
政輝

森壹岐守ハ小倉ヨリヒノカニ上京ニ都建仁寺ニ居自

殺

大谷刑部少輔吉隆カ留守敦賀城蜂屋市兵衛城ノワタ

シヤ夕仕形無殘所ト云々

前田德善院玄以ハ其比子羽柴左近ニ龜山ヲワタシ共

身ハ諸事ニ不構トイハ斥左近三成ニ一味ノ上進退破

滅也

九鬼大隅守嘉隆ハ勢州鳥羽ノ城主也嘉隆今度西園方

ニ成合ノ因此嫡子長門守守隆ニ命シ他人ヲ交ハズ是

ヲ攻シム嘉隆利ヲ失イ鳥羽城ニ籠ル長門守カ兵急ニ

撃ツ嘉隆和ヲ請守隆公儀ヲ恐ル、ユハ諾セズ嘉隆自

害ス

紀州新宮堀内安房守楠籠九鬼守隆攻之堀内乞和逃亡

子堀内若狝守後籠大坂城

今日朔日伊藤修理大夫祐慶

坂病死祐慶有于時十一歲父民部少輔祐隆在大坂通志於閑東於大坂病死祐慶有即從九月廿日攻宮崎城

大垣今日城ヲノツトリ城代近藤平左衛門父子三人戰

死其外百餘人打死ノレヨリ嶋津義家居城佐渡原ヘヲ

シヨセ大ニ戰テ利ヲ得ノレヨリ嶋津義弘カ領分

シヨセ大ニ戰テ利ヲ得ノレヨリ嶋津義弘カ領分

シヨセ大ニ戰テ利ヲ得ノレヨリ嶋津義弘カ領分

シヨセ大ニ戰テ利ヲ得ノレヨリ嶋津義弘カ領分

倉岡高岡被合四箇所ノ外城カリ合テ築一作築瀬ノ渡ニテ
相戰嶋津兵百餘輩ヲ討テ嶋津カ兵真田山木脇口處
々ニ防トイハレ伊東カ兵得利也翌年五月和駐宮
嶋四万石與高橋

上杉景勝カ臣直江今日朔日関箇原逆徒落去ノ了ヲキ
イテ兵ヲカヘス初メ九月十三日畑屋ノ城ヲ攻ラトシ
ノレヨリ山形ノ塚初瀬堂城ヲ攻ヘキカ夕メ同十四日
初瀬堂城向菅澤山ニ陣ヲトル城ニハ寢上義光カ兵志
村伊豆守在城ス山形ヨリ加勢トシテ酒延越前氏家九
兵衛トシ富南相模守亦根常陸今ヲ楯籠ラシム都合其兵五
千餘自初瀬堂迄
山形一里半初瀬堂ヨリ山形ハ平地ニメ險固十

ケレハ初瀬堂落城ニライテハ山形城危也寢上出羽守

伊達政宗ト親戚ノヨシミアリトイハレノ比遺恨ノ

了アツテ互ニ不相通政宗之母有取上義光姉也母嘗受
政宗之毒飲害政宗々々恨之由其

母于岩手山之奥
母密逃而奔巖上トイハレ此度政宗ハ加勢ヲコソス

テハ家ノ滅亡無疑ト群臣評議ヲコラシ上杉未夕畑屋

ハ兵ヲ不出以前ニ義光カ嫡男修理大夫方ヨリ政宗ハ

加勢ヲ乞ニ遣ス此旨九月十二月ニ政宗ハ告来リケレ

ノ別政宗伯父伊達上野介ニ石川弥兵衛ヲサシソヘテ

馬上五百騎鉄炮七百挺十六日ニ岩手城ヲ出勢セシム

而メ直江カ兵初瀬堂ヲ取圍山形ノ方ハワザトカコシ

政宗加勢此
大勢ノソナ
ソスト云送
リテ實ノ足
輕二組二百

挺ノ加勢ニ
ト云

トトク時ニ城兵妻子ヲ山形ノ城ヘノケシメテ心易ク
防戦ヲトケン^ント云ケルヲ湯村信濃イ、ケルハ妻子
ヲ山形ヘラケラハ必ス幼弱ノ輩取ミタシテソレニヨ
ツテ城兵七崩ル、トアルヘシ妻子ヲ其ニ、置各必死
ヲキツメ妻子モ必死セシムヘシ如此時妻子ノカタツ
ケ何カト取ミダセハ籠城ノサ、ソリトナルモノ也ト
制止ノ城ヲ堅ク守ツテ昼夜相サ、ユ是ニヨツテ城中
力不屈ノ内ニ政宗カ加勢山形ニ至リケレハ義光即
新田村ヘ出勢ノ初瀬堂ノ後詰ヲナスシカレハ城中弥
ツヨリ寄手モ圍ラトイテ義光ト對陳ス菅澤村ト新田

或去
上泉深田ニ
兼八戦死全
原打之回全
興左衛門助
カ云云

村ノ間ニライテ度々セリアイアリ九月廿四日双方ヨ
リ足輕少々出合鉄炮セリ合アリシカソレヲ互ニスケ
合トテ大勢ニナリ門傳村ニライテ義光勢并ニ政宗加
勢相トモニ直江カ兵ト相戦<sup>直江カ本陣ハ千ノ山ノ
カケニ備初瀬堂ヨリ十二</sup>
^{三町自}事終日政宗カ加勢小川藤次<sup>鉄炮
百挺</sup>岡八郎右衛門
^同力手ノ足輕ノコリスクナニウタル、直江カ兵士モ
過半打死ニ付直江方ヨリ軍使ヲ發シ上泉主米方ヘ^上
城人数ヲアケテ引トレト下知ストイハ^庄畑屋ニライ
テ寄手多クツタセタレハコレニテ色ヲナラサントシ
イテヲリシキ戦ツイニ打死ス<sup>行年廿四
十八歳ニテ討之</sup>全原加兵衛義

光方七、大勢ヲタレケレハ里見越後ヲツカワシテ人數
ヲアケシム里見越後其比七十有餘ノ老武者ナリケル
カ、ルくトハシリメクリ小高前へノリアケテ越後力
家人里見内藏助船越作右衛門ト相談シ馬ヲ三頭ニ夕
テ、味方ノ人衆ノ中へノリコミ段々ニ引取此日越後
馬三足ノリタラシケルト云傳ヘタリ上杉方前田忽止
斎慶次小田邊大學政宗方ニ石川孫兵衛イツレモ戰功
アリ大學ト孫兵衛トモレテ村此合戰早朝ヨリ極腕
ハ出合テ互ノ仰相感ト云々
マテノ了也カ、ル所ニ關箇原逆徒敗北ノ事七八日ニ
キコヘケレハ同廿九日直江初瀬堂前ノ寄手并義光對

陳ノ兵ヲ引トラントス此時初瀬堂城并義光力兵付慕
フ直江自ラリシキテ心静ニ下知ス直江方溝口左馬助
大関弥七杉原常陸介也足輕ヲツレテ後殿イタシ付ル敵ヲ數
多討取大関足輕百騎兵七十ヲニニワケ切所ニヲリ立
百挺ノ鉄炮ニテ打立ヨキ圖ヲ見テ七十ノ騎兵ヲ入立
テ大ニシホク付テ引トル人上杉方ニ本松右京亮最上
方兵天童弥七ヲツツ月既ニ暮ニ及ケレハ溝口左馬助
直江ニコトハリテ則共場ニ陳ヲハリ今日十月朔日ニ
悉引拂ノ也廿四月廿九日ニ上杉勢二千餘討死最上義
光力兵政宗加勢足輕多ク討死兵士打死ハワツカ十騎

二不過

凡ノ直江カ兵永井ヨリノコヘ口山ノ邊城ニサガイ肥

前守在城シクルヲ攻落ス山形八廿一里半上杉領分庄内三郡

ノ丹川北渭田ニ志多修理亮在城川南大山城ニ下治石

衛門初名對馬守在城河南下治石衛門秀久兵ヲ出ノ最上方番

手持ノ城々谷地自岩裏河江城ヲ攻落谷地城下秀久表

自岩城土橋某守之谷地城取上ヨリカヘリセノアツラ

大ニ攻撃城兵大井右連ト去七ノ鉄炮ヲヨク打出ノ寄

手大ニ蒙疾上方逆徒敗走ニ付各城ヲ谷地ノ境トニ並ノ

アケ退ク庄内不殘取上義光ニ屬ス

城モ爾下取上ニテ大澤サスサハ西城ヲ志多修理攻ヲ

トス川西取上川取上領ノ城々不殘上杉方ニ屬ス義光

修理大夫茅居コレニヨツテ取上義光大ニ驚西ハ左澤

城志水城不陷

北ハ天童城ヲカキリ大ニ守防之

今度奥羽兩國ノ大名悉ク景勝退治ノ夕メ七月廿日山

北北ノ才澤上仙北ノ小野寺六卿本堂南部皆最上ハカ、

リ義光ト示シ合米澤口ハ發向七月廿八日逆徒敗北ノ

註進キコハ九月朔日ニ諸勢皆歸陳也

南部大膳大夫信直新城ニテ出勢ノ處ニ仙臺塚南部領

ニ一揆蜂起ノ由註進ニ付コトクク引カハス上方敗北

ノ沙汰キコハスアトニ一揆ヲコリケレハ南部進退ニ

度ヲ失山ヒンボク北取上サカイニテガコキト云切所ヲコシテ

引退トス山北^{ヒボ}境金山ニ取上義光方ヨリ要害ヲカヘ
ヘ丹ノ與三ト云小身セノヲ入置南部コノ所ヲ通ルニ
丹使ヲ立テ義光ヨリ左右無之間トラスニシキト云南
部兵コレニ驚雜兵皆クツレ立テ新城ノ方ヘ敗北スシ
カレハ南部コヽニ逗留シ義光ヘ使ヲ立數日ノ逗留ニ
クルシミヲガコチノ要害ヲカリテ人衆ヲ可入置ト云
ケレハ丹大ニ怒リ要害ノアタリヘセヨセ不付其後義
光ヨリ使来テ南部此所ヲトラレリ
南部領和賀郡水澤ト云所南部ト政宗領分ノサカイ也
此所ニ和賀主馬助ト云セノ南部カ家人ナリシカ九ノ

カ子孫ナリトテ政宗ニ牒シ合セ政宗加勢イタスヘキ
由ニ付テ一揆ヲ起シトヤサキノ城ヲ攻^{或云南部居城}
城ニハ北庄齋^{初名太郎}奥寺石馬^{平良子}平内^{兵衛十}
ト云セノ楯篋ケルカ城中ノ女童ニテカリアツメ屏ヲ
ララ守ラシメ四方ヲフセキ能圖ヲ考ヘテ兵士外ヘツ
イテ出テ一揆ヲ追拂フコノユハニ一揆コトヘカ子^和
賀郡岩崎ノ古城ニ取入南部歸國以後岩崎ヘ出勢スト
イハル無程嚴寒大雪ユハニ岩崎ノ城責不事成コトサ
ラ此城北上川ト云大河ヲ東南北ニ引帶西ハ廣野山ニ
ツヽキ堀ヲ西ニ二重ニテホリケレハ要害險阻ノ地ニ

テケレハ早速落城ノ地ニアラス、明年^辛三月六日南部
父子兵ヲ出ノ岩崎ヲ攻此時政宗方ヨリ南部へ加勢ノ
由ニテ人衆一千余ヲ指越岩崎城一方ヲウケトリ可攻
ト云然レ凡實ハ一揆主馬助方へノ援兵ナルユへ南部
カ備ノヒテラ伺ヌ南部境之信濃寺ニ遣兵ヲ與テ政宗
カ加勢ヲキリクツシ大膳ハ城ヲ一時ニノリクヅス政
宗加勢大ニシタレ城ヲ陷ツイニ和算主馬助戦死城内
ナゲキリニイタシ其後右ノ旨趣ヲ公儀ニ詐^詐政宗不存
儀逆意ノ企ハ加勢ノ者ノ私トイタセル事ナルヘシト
テ礼明ノ上其時ノ加勢ノ大將三人切腹セシメ頸ヲ南

部カ元ニラクリテ陳謝セシメケルユへ政宗事不及子
細也シカレ凡政宗ト南部ツイニ不和タルハコノユへ
也南部領斗ニ不限政宗所々ノ土民ニ氣ヲ七夕七一揆
ヲ催促セシメシ也、景勝領刈田郡ハ政宗回領ユへ一揆
宗アヤフミテ不肯ノ所未澤ヨリ白石ヘトフル能脚ニ
人湯原ノモノ凡取首ヲ文箱ニソヘテ政宗ハソカワ
ス政宗喜テ肯之景勝大ニ怒リ湯原村百姓男女ヲ屠ハ
シトテ打手ヲツカワスニ付湯原村ノ民不殘山形領へ
引逃ル又伊達郡ノ者凡モ政宗ニシタカイ一揆セシメ
七八百古城ニトリコモル所ニ景勝打手ヲツカワシテ
城ヲ攻崩シ一揆不殘ナゲキリニイ
タセリ政宗謀討如此トテ、
又南部領大間^{大間}ニ一揆ヲコレリ城主大間藤四郎戦死ス
此城ハ南部曾田中清六ニ與ユ清六大間藤四郎ヲ城主

トス、此外方々一揆蜂起スシカレ、上方逆徒静謐ノユ
ハ、翌年三月中ニ悉退治之。

三日黒田如水豊前小倉城ヲ、^而トシイル如水去月廿八
日富来城ヲセメ取ノレヨリ兵ヲカハシ中津ヲトフル
トイハ、上城ヘヨラス直ニ廣津ヘ出香春城ヲセムコ、
ニハ毛利壹岐守カ一族毛利九右衛門在城ス寄手ノ来
ルヲキイテ城ヲツタシ降参ス如水ノレヨリ小倉ヘ趣
ノ所壹岐守城ヲ守ル丁不能今日城ヲステ、逃退
四月豊後旧杵城ハ太田飛彈守在城ス飛彈守上方ニア
ツテ逆徒ニ與シテレハ旧杵ヨリ佐賀關ニテトリツ、

クテ海陸ヲ持堅ム中川修理大夫同國星崎ヨリ發向ノ
旧杵ヲ攻ントス中川カ即從中川平左衛門古田喜太郎
榎野五右衛門以下千餘人大坂ヨリ渡海シ海上ノ番船
ヲ追ハラシ陸路ヲヘテ旧杵表ヘヨセントス太田カ兵
北塩源内橋本傳十郎佐賀関津久見佐志生ノ人質ヲト
リ堅メ相待所ヘ中川カ足輕尾入コム地下人尾鉄炮ヲ
夕チカケテ鍋倉谷ヘ引入佐義長カ鼻ノ田中ヨリキヒ
シク鉄炮ヲ打ツ中川カ兵鍋倉山ヘトリノホリ足輕ヲ
カク今日四月寅刻中川兵コノ所ヲトララントセシニ
地下人佐志生ノヲリ口ニ伏兵ヲ、キ中川カ兵山下ヘ

ヲル、所ヲ神主作ノ先サキカケシ夫石ヲ飛ス丁急故
ニ中川カ兵木道ヘ引カヘス地下人前ノ案内ハシル有
屋峠コ、カシコヘ出合中川カ兵ヲウツ中川カ兵士牧
勘右衛門討死難人三十餘人ヲタル地下人コノ首庄ヲ
旧杵城ニヲクル旧杵勢コレキ、加勢トシテ方井田
太郎左衛門三百餘人ヲ召具ノ未中川カ軍船廿餘艘ヲ
悉ク下浦ニテキリトル中川勢不叶ノ佐賀関ヘ引トル
旧杵勢并地下人ハ皆浄土寺ヘ引籠ル中川勢攻之木田
カ兵士橋本傳十郎力戦ス田原紹忍宗像小助佐賀關ヨ
リ未テ中川平右衛門カ勢ニ加リ宮上山ニ備ヘ古田喜

太郎ハ佐義長鼻ニテ討死ス加嶋平右衛門討取之榎野五右衛門
ハ姫野清介ニシタル中川平右衛門百餘人ニテ旧杵勢
三四百人ヲ三度切崩シ神主作ノ先ニ討トラル方井田
太郎左衛門小松原ニテ相戦紹忍打死ノ佐子野喜三郎
得其頸中屋宗悦柴屋西嘉等戦死ス両月ノ戦ニ双方手
負死人甚多シ中川自旧杵ヲセムレ庄屈竟ノ要害ナレ
ハ不及力其内ニ逆徒敗北ノ了キコヘケレハ太田城ヲ
アケツタシ去也
十月毛利輝元逆徒ニクミストイヘ庄吉川カ子テ関東
ヘ内通セシムルニ付テ周防長門兩國ヲ被下也今日則

誓書ヲ賜フ同十二月井伊直政七亦誓書ヲ毛利ニ與ユ
十七日嶋津御退治ノ旨請大名ハ被仰出軍上出羽守義
先以下ニ賜書

十九日前田利政能登侍從没能州利政初属利長攻大聖寺後
守能登黨于逆徒也

廿日立花宗茂柳川ニ揃籠リケレハ鍋嶋信濃守宗茂味
方ニ一イリタル軍忠ノ夕メ筑後柳川ノ城ヲ可攻トテ
十月十八日ニ寄来ル十九日ニ立花吉右衛門兵ヲ率シ
鍋嶋カ軍勢ヲ見分ヌ此時鍋嶋カ兵ヲ數多討取ル廿一
日鍋嶋信濃守定茂右ニ鍋嶋安藝左ニ成澄若狹ヲ備ヘ

戸押寄立花左近將監宗茂ハ城ニアツテ家來凡一陳小
野和泉守二陣嶋石見守三陣立花吉右衛門同三大夫也
城ヨリ二里出水瀧郡八院足場悪クホノ道一筋ノ所ニ
テ左右ニ足カ、リアリシカルニ立花カ先陣敗レ立テ
ケレハ右ノ細道ユヘニ二ノ手ヲ可入ヤテ七十クツ、
イテトセクツレセリコノ時立花三大夫殿ノ戦死ス和
泉吉右衛門深手ヲ負初メ加藤清政ハ立花トカ子テ心
友タリケレハ清政関東へ執シ可申旨ヲ云ケルヲ近日
鍋嶋出勢トキコユレハ一戦ヲトグ其上ニ可頼入トイ
イラクリ右ノ合戦ノトキ加藤清政七出ケレハ立花清

政力陳へカクコニ城ヲ清政ニツクス清政力兵和田備
中在番入立花事シハラク蟄居シ其後清政執シ申ノ棚
倉ニテ一萬石ヲ賜フ柳川没落ノトキ立花力家人ハ皆
清政ヲケトリテ是ヲ扶助スト也或云十一月十日

十一月六日

伊達政宗十月景勝力領分長井郡ノ内由ノ

原ト云所へ取カク放火ノノ後今日福嶋ノ城ヲ攻

シカ夕ノ片倉備中守ヲ先手トシテ相ス、ハ福嶋ニハ

本庄越前守重長在城重長力組ニ松田孫三郎後改越中本庄

出羽守上坂米女先方衆ニ岡野左内才ノ道ニ栗田刑部

岩井備中守栗生彦濃守又號寺村半左衛門尉業折圖書又號北川圖書青

木新兵衛等有之トイヘ凡各在々へ引コニ有之時分十

レハ城中ニ兵士少シ城ヨリ足輕ヲ出シセリ合アリ城

中見嶋左道政宗勢ヲ木内ト云テ十町ハカリ追立ツ

イニ打死ス城兵堅ク守ニ付政宗引トル先方衆戦ヲ

八月加藤清政ハ錫嶋信濃守ニ会シ柳川ニ出ノレヨ

リ國ハカハリ小西攝津守行長力居城宇土ハ奮向シ今

日八月攻之大手ハ吉村左道搦手ハ清政自率兵ノ相向

大村新八郎忠純方ヨリ今里新左衛門加勢トノ鉄炮百

五十丁ツレ出搦手ノ先手飯田角兵衛三宅喜藏後改角左衛門

也城兵外構へ出テフセキクル力搦手ノ寄手上ノ山へ

マソルヲ見テ兵ヲ引城ニ入ル所搦手ノ飯田三宅是ヲ
追付ル南條玄珠返合セ、リ合力戦メ引トル寄手仕寄
ヲイタシ竹夕ハラ付ヨスル城兵杉本次郎助夜中ニ忍
出テ搦手ノ竹把ヲヤク此時清政カ兵逆川忠兵衛出合
テ杉本ト相戦目下部與助田中兵助山田太郎右衛門同
伊右衛門等鎗ヲ合太刀打メ是ヲ拂ノ班鳩平次堀下ニ
相詰急ニノリヤフラントスルノ所小西カ兵凡関箇原
敗軍ヨリ直ニ宇土ヘノカレ来ルモ多クレハ清政方
ヨリ城中ヘライ入ル城兵力屈氣衰和ヲ乞テ城ヲアケ
ワタヌ清政兵ヲ熊本ニカヘヌ右夜込ノトキ酒川忠兵

衛手ヲ負其血ヲ城門ノ扉ニ手形ヲイタシカヘリテ明
目ノシルシトス此度ノ戦功ノモノ清政皆感書ヲ與ユ
飯田三宅目下部逆後南条杉ヲハシメ小西カ兵多ク清
川田中山山田也政コレヲ扶助ス

十六日秀忠卿参内ノ夕メ大坂ヲ出テ伏見ニ至リ玉ノ
十八日秀忠卿参内京都ヲハ奥平義作守信昌守護ス和
州郡山ノ城ヲソリコレヲ伏見ニ引テ伏見ノ城ヲ築カ
シムヘキトテ命セラル而メ郡山ニ筒井カ子孫ヲ尋子
シメ順慶カ甥筒井主殿ヲ召出サレ一萬石ヲ賜リ與カ
ル此騎付ラレテ郡山古城ニサシラカル

増上寺住持存翁和尚大坂西丸ニ至テ逆徒速滅ノ儀ヲ
賀シ奉ル

十九日前田能登守利政能州ヲハナタル

山北小野寺遠江守領分ヲ召放タレ石川ニ放逐小野寺
ハ藤原秀卿カ後胤也小野寺太郎道綱仙北稱庭ヲ領メ
ヨリ後代々山北ニ在住メ尤貴族タリノノ此山北ニハ
才澤本道六卿等有之テ或ハ南部ニ屬シ或ハ小野寺ニ
シタカイ日々鬪諍ヤム丁ナシ大正五年最上出羽守義
光仙北ニ兵ヲ出メ小野寺遠江守カ領分湯澤益田ノ西
城ヲセメラトス小野寺ハ由利ニ勤テ六卿カ領分ヲト

セカクニ川西所ヲ押領ス故ニ互ニ憤ラフクニテヒニ
ヲ伺ノ所ニ關原一戦ニ及テ上杉景勝カ兵最上領分ハ
兵ヲ出メ相戦ノノヒニ伺テ小野寺遠江守湯澤益田
ニ奔向スノノ此湯澤ニハ義光カ家臣在岡豊前寺在城
ス益田ニハ長才呂内膳正在城ス各堅守テ小野寺ヲレ
ラセムル丁不能六卿ハ此度ヲトセカクニ川ニ勤テ小
野寺カ押領分ヲ取カヘス而メ逆徒敗北シケレハ同十
月義光兵ヲ率メ由利秋田ノ兵ヲ催シ小野寺遠江守カ
弟孫十郎カ楠籠タル大森城ヲ攻ラトシ孫十郎ヲ生捕
メノ内ニ上方弥逆徒退散シケレハ此旨具ニ最上義光

ヨリ言上ニ小野寺遠江守義光領分ハ弁向ノ罪ニ由リ
石川ハ流刑セラル六卿ハ小野寺力押領分ヲ攻卜ル丁
忠義ニナリテ則恩賜セラル也

今月關國ノ功將ニ賜安藝備後五十萬石福嶋正則元尾川清洲二十萬石

石播磨一國池田輝政元三川吉田十五萬石紀伊一國四十萬石淺野寺

長元甲川十五萬石筑前一國廿四萬石但山口玄蕃繩打廿六萬石

後如水繩ノ入餘黑田長政元豊前中津十六萬石筑後一國廿萬石但山口玄蕃

繩也田中吉政元三川岡十萬石備前義作西國豊臣秀秋元筑前出雲

隱岐堀尾吉晴元遠州濱松六萬石信濃守吉氏領之吉土

佐一國山内對馬守一豊元遠州掛川六萬石豊前并豊後木築元萬石

長岡忠興元丹後一國木築六萬石伯耆并因幡ノ内中村一忠元丹後

伯耆寺元若狹一國京極高次元江川大津丹後一國京極高政

元信州飯田八萬石伊豫半國松山加藤嘉明同州半國今治二十萬石

千藤堂高虎元八萬石因幡鳥取池田長吉備中飛騨一國全

森法印長近丹波福知山有馬豊氏元遠州横須賀美濃高洲徳永

法印昌時勢州神戶一柳直盛肥後一國五十四萬石加藤清政

能登并小松大聖寺前田利長越前結城三河守秀康尾張

松平下野守忠吉此外小身ノ侍恩賞ニ與七ノ不可舉數

秀頼卿ヨリ小出播磨守吉晨未会ノ源君ヨリ此旨ヲ命

セラル

十二月黒田長政カ許ヨリ有衝ヲ献上是ハ京都ノ町人
草菴ト云者ノ重宝ナリ然ルヲ石田三成黄金三千両ニ
買草菴有衝ト号ス今度一亂ノ時草菴見舞ニ行夕リ三
成此有衝ヲ草菴ニ與ヘテ若此度ノ一戦ニ利ヲ得バ其
時取返スヘシ討死セハ是ニ茶ヲ入テ我ニ手向ヨトテ
與ニ草菴此有衝ヲ以テ筑前ニ下リ毎日近邊ノ者ヲ集
テ佗數寄ヲス人アヤシミテ長政ニ告ル故ニ是ヲ召捕
テ子細ヲ尋テ有衝ヲ奪イ献上草菴ヲハ長政ニ下サル
大坂西丸ニテ井伊直政本多忠勝柳原康政本多佐
渡子正信大久保相模守忠隣平岩主計頭親吉ヲ召メ公

達ノ内御家督ノ御評定アリ正信申シクルハ御長弁ト
云御武勇ト云三川守秀康卿ニシクハ不可有ノ冒言上
ス忠隣云今下ノ御政務ヲニカセニイラセラレシ秀
忠卿ニシクハカラスト云柳原康政七秀忠卿ヲ執シ申
ス丁忠隣カコトシ追テイツレモ方可申上トノ御意ニ
テ其日ハ退出次ノ日又六人ヲ出メ愚意ヲノヘシメ玉
ノ正信又如昨日云忠隣モ亦昨日ノコトク言上スルニ
付テ兩人ニ命セラレテ是非ヲ評論セシメ玉ノ其後源
君御思慮ヲメクラサレ忠隣カ申上ル處ニニカセ玉ノ
足利學校三要長老ニ命シ玉ノ其後觀政要孔子家語武

經七書ノ板行也シノ玉ノ

慶長六年正月元日源君秀賴卿ニ御對顔其後諸大名皆西ノ凡ニ群參ノ年始ヲ賀ス

二月源君御家人ニ領地ヲ賜フ江川佐和山井伊直勝兵部

勢川來名本多忠勝中務濃川加納與平信昌義作同川大

垣石川康通長門三川岡崎本多康重輩後同川吉良本多

康俊終殿同川吉田松平家清玄蕃遠川濱松松平家廣内膳

正遠川懸川松平定勝隱岐同川横須賀大須賀忠政出羽

駿川田中酒井忠利備後駿川府中内藤信成平左衛門同川

興國寺天野康景三郎同川三牧橋大久保忠佐次右衛門上総

大多喜本多忠朝出雲各城守トナル也此外采地ノ人々

若干ナリ

今月伊達政宗伊達郡へ働テ放火ス宮代ト云前ニテ政

宗戰勝數多打トル政宗方柴田小平次守屋伊豆麻股喜

右衛門茂庭兵藏戰功アリ景勝兵岡野左内才道二小瀬

羨濃永井善左衛門各戰功アリ

廿七日秀賴卿推大納言ニ任セラル元權中

廿八月秀忠卿正二位大納言ニ任シ玉ノ廿九月參内ニ

シクテ拜礼アリ此月松平下野守忠吉ハ侍從ニ轉任也

今日廿八月伊達政宗信夫郡ヲ放火也シメ兼折ニ陳ヲ

張テ今日瀬ノ上へ働キ福嶋ヲセメントス末折ヨリ瀬ノ上ニテ三

里余福嶋城在番ハ大関孫七宮部修理ナリ本城重長カ組ノ先方衆皆在城ノノ間ニ瀬ノ上

ノ川アリ自瀬ノ上至福嶋ヨリ左ノ羽黒山ノ山カケニ

福嶋勢伏ヲ置テ政宗カ来ルヲ待政宗ハ不知之瀬ノ上

ノ川ハ夕ニテシヨセ上杉勢ノ体ヲミアソセ川ヲコ

シカ、ル所ヲ伏ラ、コシコトク夕追討上杉方岡野左

内青木新兵衛永井善左衛門小田切前左衛門才野伊豆入荒道二

栗生義濃畱池甚五左衛門布施次郎右衛門北川圖書安

田勘介蒲生家之士也以下川ヲコシテ追ツツ栗生云ケルハ敵

大勢也川ヲ前ニアテ、可打捕トイハル不用之川ヲコ

入政宗勢引カヘシ川中ニテ戦北川布施安田打死入政

宗川中ニテ岡左内カ程々皮ノ羽織ヲ二刀キル所ヲ栗

生横ヨリカケアソセヌカ、ル所ニ福嶋城ヨリ大勢出

合ケレバ政宗ツイニ兵ヲ引入ル此戦ニ政宗カ陳前衆

折へ築川ヨリ須田大炊助働テコトクク焼立小荷駄ヲ

キリツクニ政宗カ幕尾ヲ取テカヘル也政宗方衆折ノ

留守ニ小原ト云侍ノ後家方ヨリ出セル役ノ鉄炮足輕

十八人サシラク須田大炊助是ヲ不殘打殺ノ頸ヲ取徳

江村ヨリ阿武隈川ヲコシテ引トル也政宗方ニモカ子テ

コ、ヲ氣遣ケレバ築川衆折ノ間ニ大河アブクニ川流

ル敵コレヲコシテハ来ルニシキト由断シテ人丁也来
抑ノ本陳ヤキ立ラレ小荷駄クヅル、ユハニ政宗勢敗
北也或云川ヨリ手前ニテ永井岡野斎
栗生敵ツクヲ五人立トニル也

廿八月ノ晚則政宗勢片倉備中ヲ先手トメ築川ニテ押

寄廿九日ニ築川ヲセムヘキ所子細アツテ人数ヲ引入

此時城ヨリ蹤ヲ慕フテ片倉備中引取カ子タルヲ政宗

下知メ濱田治部ニ鉄炮二百挺松岡清石衛門百挺
山岸修理亮百挺差ノ

ヘ迎備ニツカフス備中寺サシヅシテ濱田ハ川向ニソ

ナヘシメ山岸カ一組ヲ備中寺カアトニ引ツケテソナ

ヘシメ片倉兵ヲス、メ築川勢ヲ追立ソノイキヲイニ

引トル時敵付ルヲ山岸ツケトリテウチ立ソノニ、引
取ル川ハ夕ニ松岡カ組ヲ立置ケレハ敵ツクナラヌ
築川勢川ヲコシテ慕フトイヘハ濱田カ備堅ヲミテカ
カルナク引トル也政宗ト景勝勢ノトリ合三月廿八
日迄也

四月廿四日庄内酒田落城初庄内三郡ノ主ヲ悪屋形吉氏

ト云吉氏無道甚シコノユハニ庄内酒田城主東禪寺寺筑

前寺土佐林浄林ナト云モノ言合テ吉氏ヲ害シ上杉家

本庄越前寺重長ニ内通メ重長カ末子ヲ養テ庄内ノ屋

形トセシト紛ヌ其内ニ最上義光兵ヲ出メ庄内ヲ退治

シ大山城ニ中山玄蕃頭ヲ入置テ庄内ヲ、サメシム其
後本庄越前守重長越後ヨリ兵ヲ出メ庄内ヲ乗捕千安合戦
此特也テ上杉押領ス庄内河南大山ニ下治右衛門秀久初名
對馬在城シ川北東禪寺今號龜崎也又曰酒田々々元町名也城ニ志多修
理亮川村兵藏考左衛門子在城ス去年景勝逆意ヲ企ニ付テ
河北河南凡ニ兩將最上領ヘ押入數城ヲ乗捕上方逆徒
敗北ニ付テ今年由利ニ郡ノ請將赤尾津孫二郎賀保
兵庫頭内越孫太郎ツイナ滝澤刑部岩屋右兵衛并ニ穴澤等出
勢ス東上出羽守義光ヨリ里見越後守大將分ニテ酒田
ヘ押寄今月廿三日由利ヨリ庄内ヘコユルコヘ口スカ

ノト云所ノ取出ニテ酒田勢川村兵藏出テ相戦廿四日
四十里ノハニニテ仁加保兵庫酒延越前自身ノ戦功ヲ
リ扱外郭ニテ乗入城主ツイニ今日廿四日降参シ志多
修理亮ハ会津ヘコユル也下治右衛門堅守リ度々相戦
大宝寺城兵松本丹後守戦死ス然リトイヘ凡会津ヨリ
所ヲコヘテ加勢ナラス一人ノ覚悟ニテ大軍難支テレ
ハ東上義光ヘ降参ノ大山ノ城ヲワタス也大山城ニテ
一粟兵部主従七人打死一粟ハヒノカニ城ヲノカレ出
テ最上ヘ降参一粟後有故自殺庄内ノ本城ハ大山也義光コレ
ヲワリ大法寺ニ城ヲカレ一八鶴岡ト號則義光隱居城ニ

トリ立テ新關因幡ヲ城代トスル也義光領最上三郡庄内三郡景勝

切取ノ領分佐渡ニハ景勝家臣川村彦左衛門居住イ夕

シ四方ヲ堅固ニ守ル慶田中清六ト云七ノ元前家町人有才覚者也

源君ハ申上少々人衆カリモヨラシ佐渡ハワタリ川村

ヲスカシツイニ降参セシメ源君ハ御札申上シメ田中

清六川村彦左衛門兩人五千石宛被下佐渡ノ代官被仰

付也其後田中川村改易アツテ大久保十兵衛代官也

六月大津城ヲツリテ膳所城ヲ築シメテ田左門一西ニ

被下元五
十石

七月上杉景勝結城三河守秀康ヲ以テサニクナケキ申ニ

付罪ヲ御免由此七月朔日会津ヲ立

八月廿四日上杉中納言景勝会津ヲ没収セラレ米澤三十

萬石ヲ被下

廿五月上杉景勝力跡会津六十萬石ヲ蒲生能彈守秀行

ニ賜リ庄内三郡ヲ最上出羽守義光ニ被下也然ハ会津

請取ノ大名五番二萬六千五百人不月ニ会津ハ夕ツ立

可請取ノ旨廿四日取上出羽守義光ニ御朱印ヲ賜フ南

部信濃守戸澤九郎二郎政盛本堂源七郎六卿兵庫頭政

兼秋田藤太即仁翼保兵庫頭滝澤刑部内越孫太郎岩屋

右兵衛取上修理大夫出羽守
子也越後侍從堀秀
治溝口伯耆守

也

庄内ハ掘侍従ニ可被下ノ旨被命トイハ庄取上義光切
取ノ地ノ由ニ付義光ニ被下也

慶長七年四月十一日嶋津修理大夫義久入道竜伯大隅薩
磨兩國ノ御朱印ヲ原戴ス

五月八月佐竹右京大夫義宣常川ノ領地八十萬石ヲ減シ
出羽ノ秋田ニテ廿萬石ヲ賜フ初佐竹ハ小山ヨリ嶋田

伊自ヲ被遣御入魂ノ儀并ニ人質ノ了ヲ被仰遣ノ所佐
竹人質ハ大坂ハ遣置也御入魂ハ辱トテ人質ヲハ不出

逆徒静謐ニ付テ佐竹ハモ安堵ノ御使ヲ被遣今年佐竹

ヲ召大坂ハ人質ヲ出スノユハ江戶ハ人質不出ハ尤也

此方ヨリ人質ノ了仰セツカワサレタル了ハアヤマリ

也但岩城忠二郎ヲ人質同意ニ指置逆徒蜂起ニ付テハ

ソカニ忠二郎病氣ニイタシ引取タル了佐竹前方ノ律

義ニ不似合也古ヨリ兄弟父子敵味方トナル了定レル

了也此所佐竹不義ノ至ナリト被仰出テツイニ秋田ノ

久保多ハ所替也

27X
21
49

